

Windowsログ分析 の基礎 ～基本編～

- ADへの攻撃を理解するために -

一般社団法人

JPCERTコーディネーションセンター



本資料について

- 本資料は、社内ネットワーク（主にWindowsネットワーク）におけるログ分析の基本的な知識を学ぶための資料です。
- 学習目的でご自由にお使いください。
- 編集・再配布などをご希望の場合は、以下までご連絡ください。
— pr@jpcert.or.jp

Agenda

1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

4

Windowsイベントログの分析

5

ハンズオン

1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

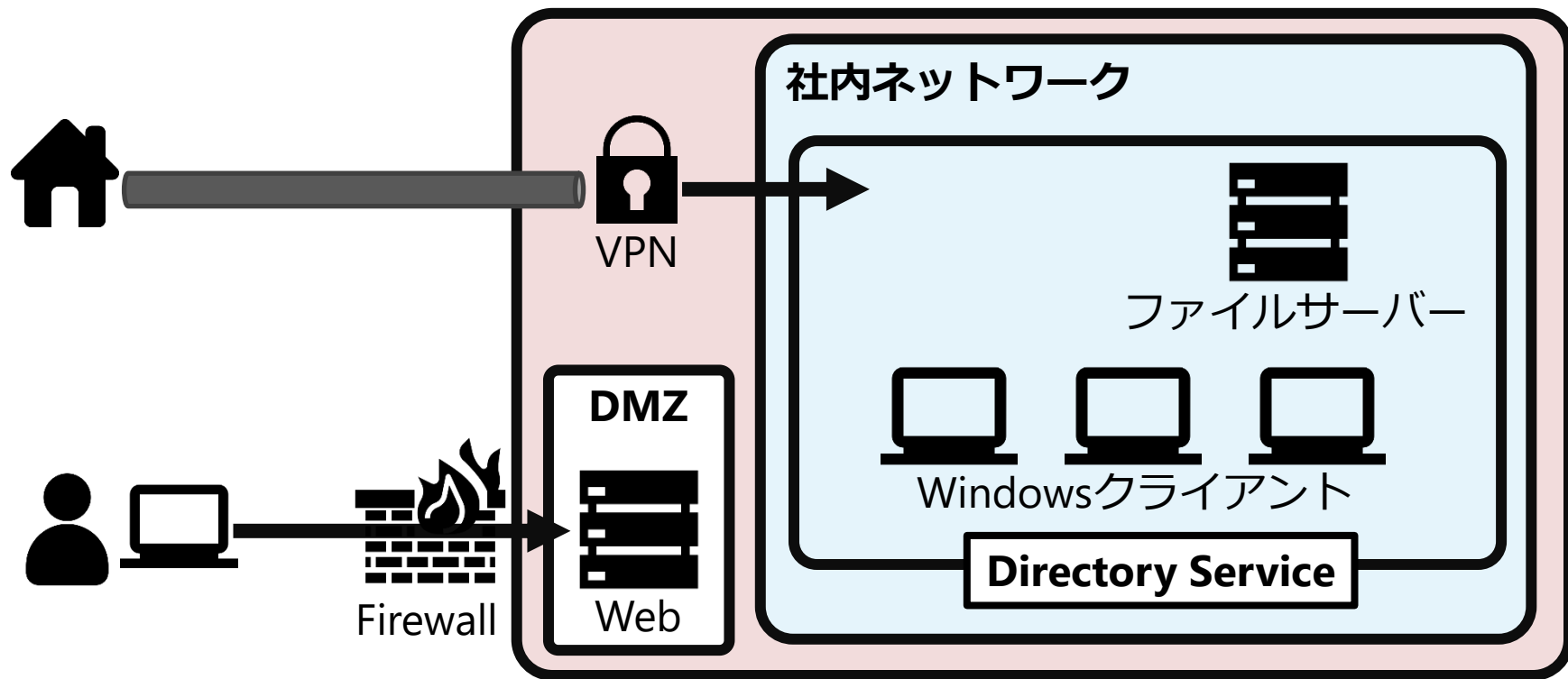
4

Windowsイベントログの分析

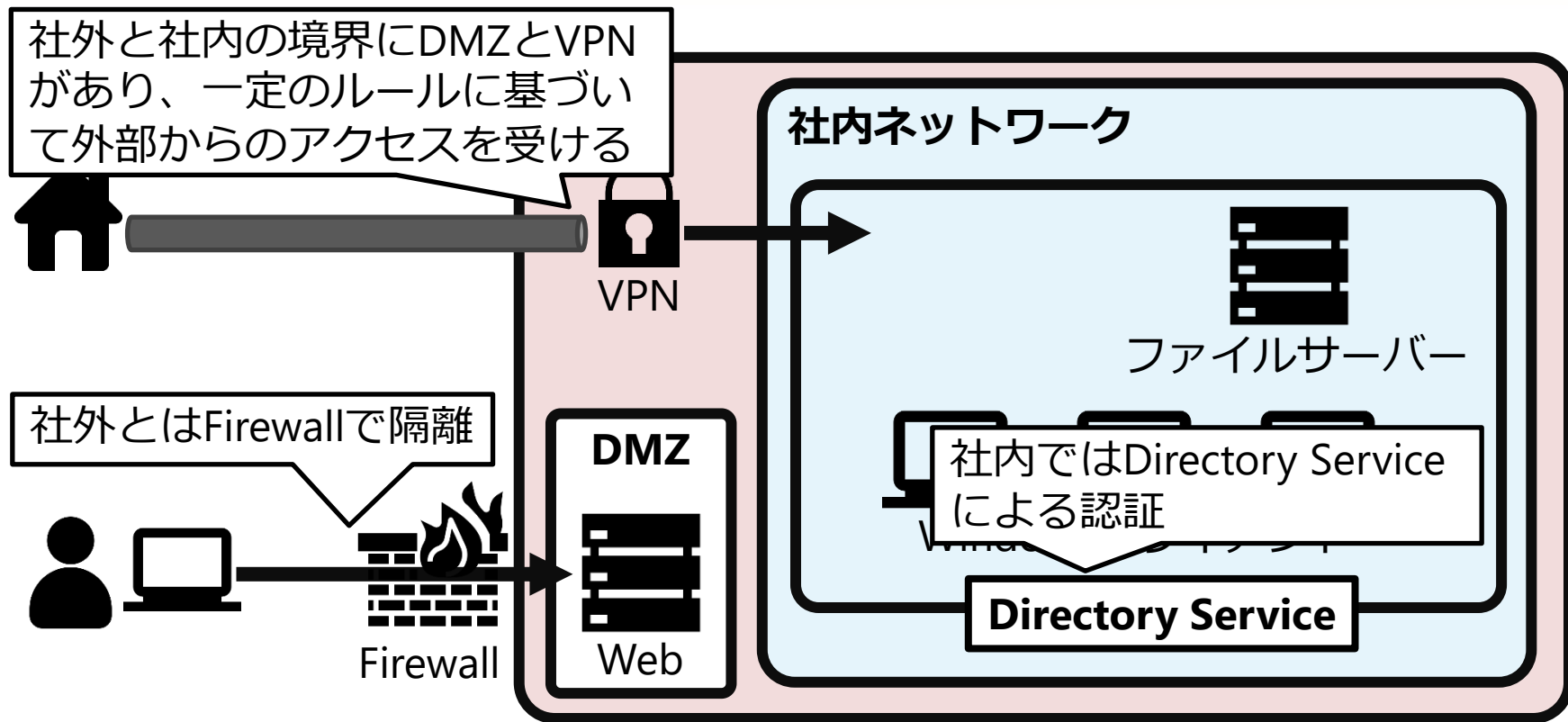
5

ハンズオン

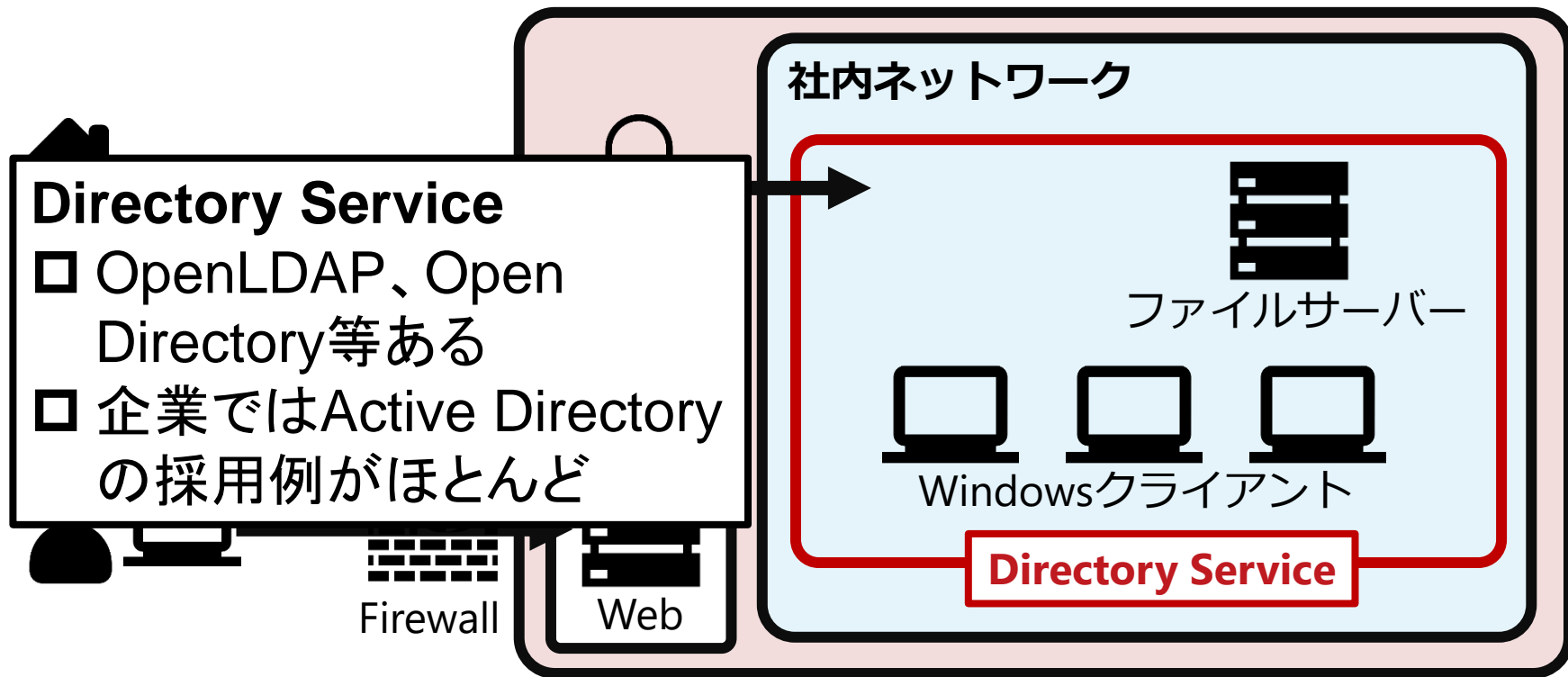
一般的な社内ネットワークの構成



一般的な社内ネットワークの構成



一般的な社内ネットワークの構成



Active Directory Domain Service (AD DS)

AD DSとは

- Windows Serverの**機能**で、Windowsネットワーク内の端末管理や認証・認可を行う

例えば、➡

このサービス
使える？

ファイル見て
良い？

USBは使用禁
止

5分でスクリー
ンロック

ドメインコントローラーとは

- AD DSがインストールされた、認証・認可を行う**サーバー** — 管理する範囲は**ドメイン**という
- 複数台で運用することも可能（子会社/海外支局など）

ドメインとフォレスト

ドメイン

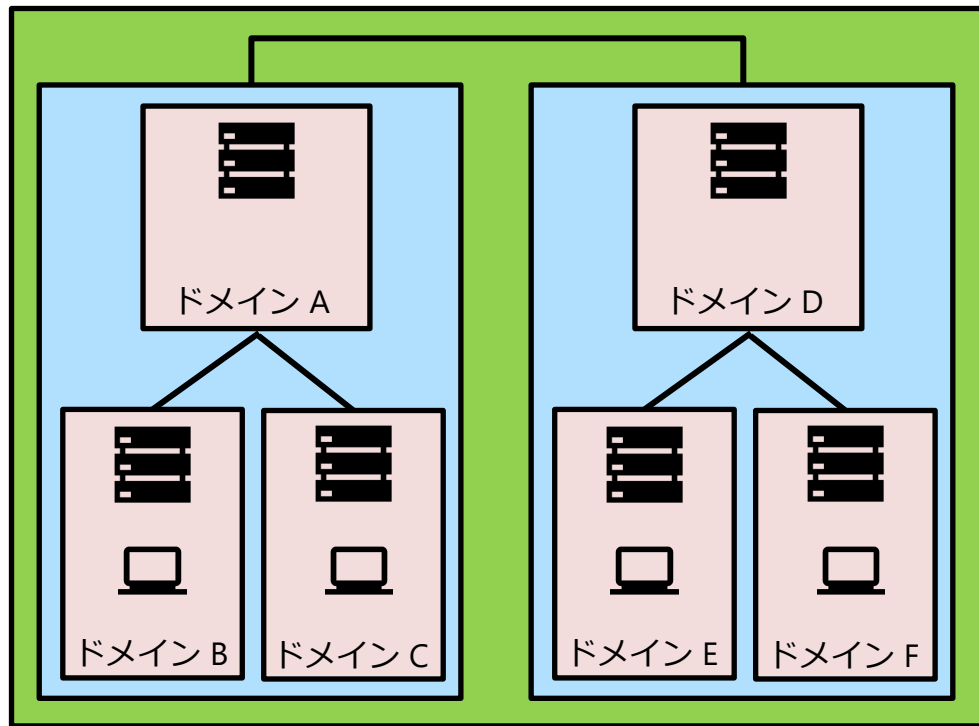
- あるドメインコントローラーが管理する範囲
- 複数台で管理することもある
- 親子：サブドメイン継承
- 信頼：相互に認証しあう

ツリー

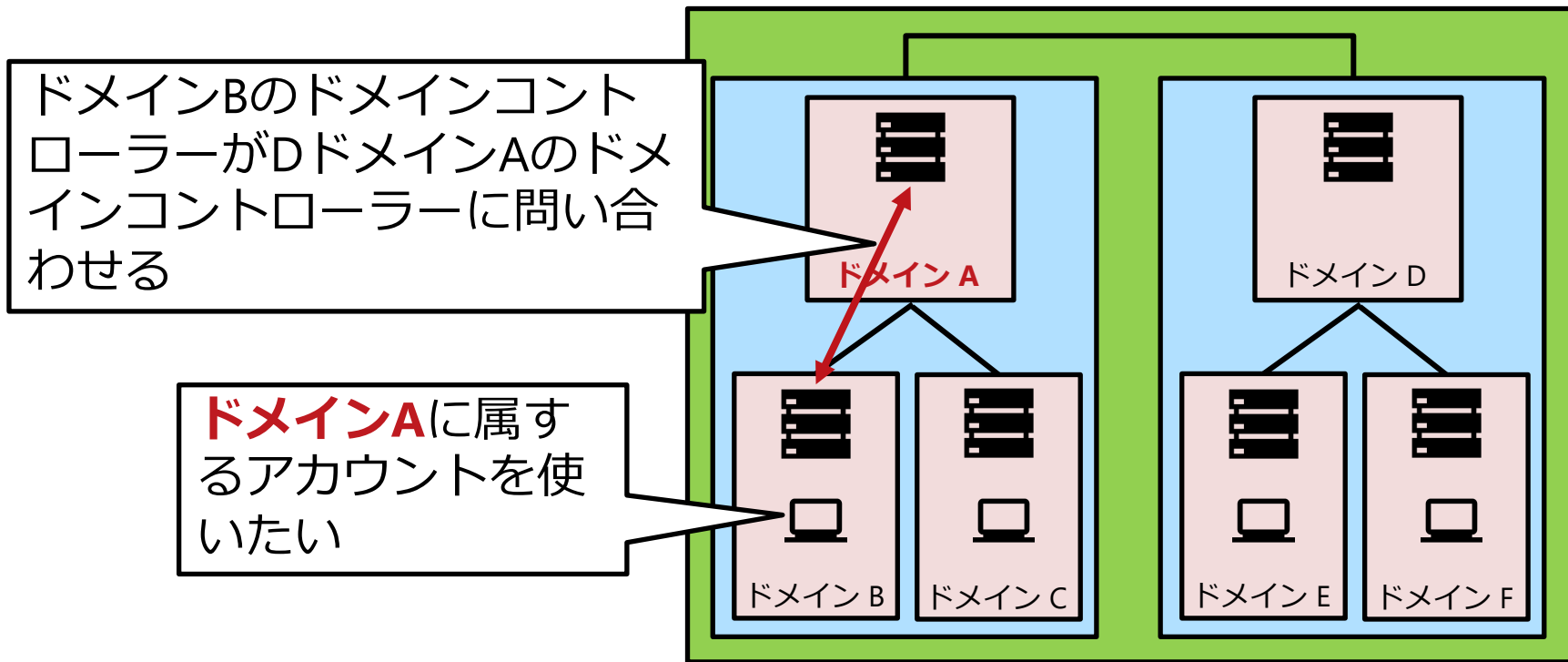
- ドメインの親子関係のみで形成された構造
- 子は親のサブドメインを用いる
- 事業部制・独立部隊がいる・子会社etc...

フォレスト

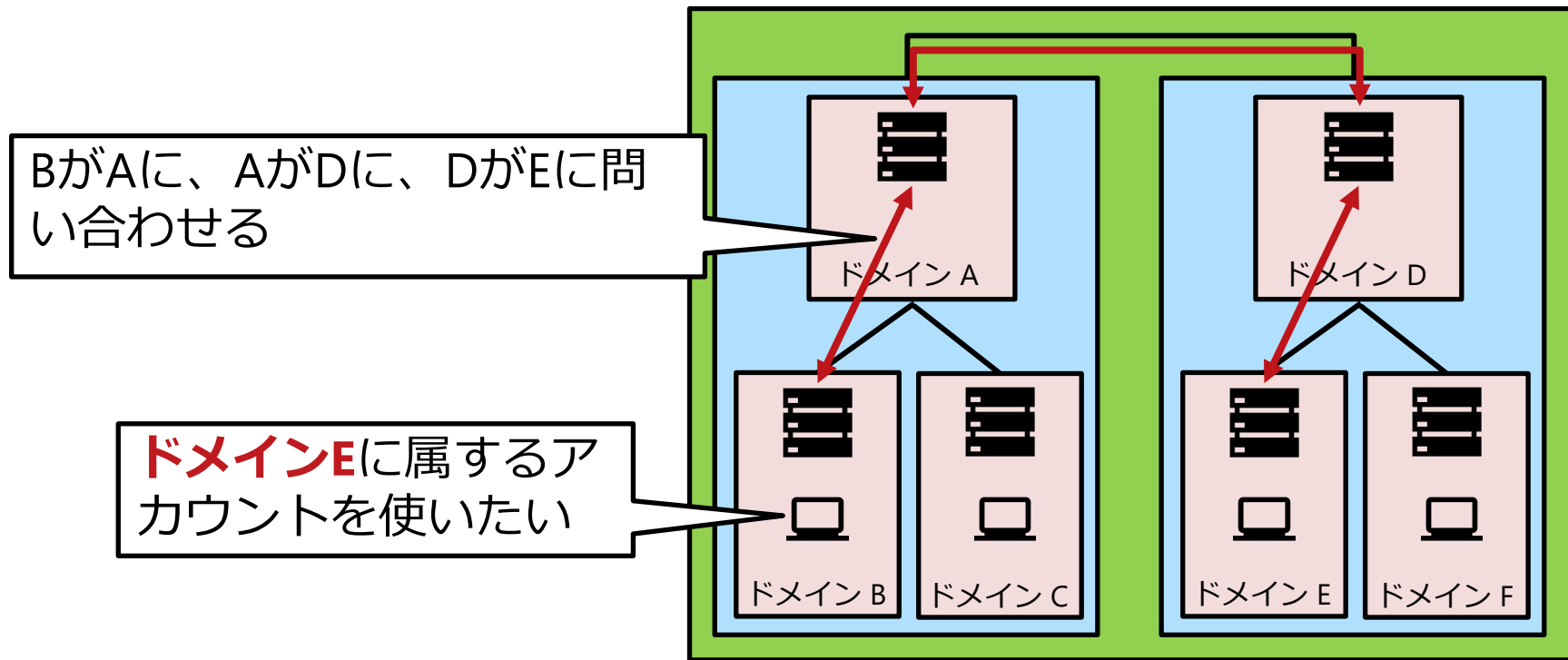
- ツリー同士の信頼で形成された構造
- 信頼関係にあるドメインに命名規則はない
- 企業合併・子会社etc...



ドメインとフォレスト



ドメインとフォレスト



ADにおける認証/認可の仕組み

RFC 4120 - The Kerberos Network Authentication Service (V5)



ユーザー



ドメイン
コントローラー



アプリケーション
サーバー

① 認証

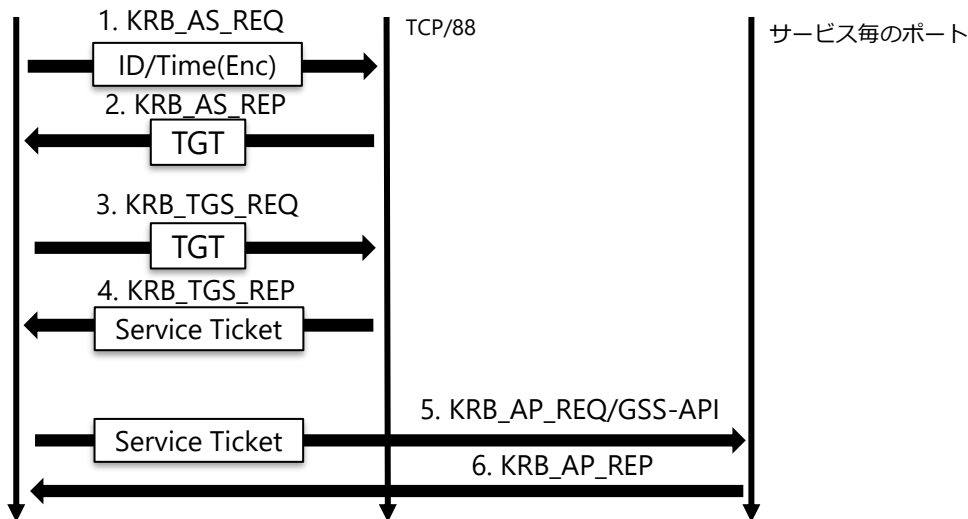
ユーザーがDCに属するユーザであることを確認する

② チケット発行

ユーザーのIDや権限を証明するチケットを発行

③ チケット提出

各サーバでチケットを検証しDCに属する権限を持ったユーザーであるか検証

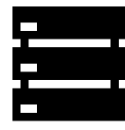


ADにおける認証/認可の仕組み

RFC 4120 - The Kerberos Network Authentication Service (V5)



ユーザー



ドメイン
コントローラー



アプリケーション
サーバー

① 認証

ユーザーがDCに属するユーザであることを確認する

1. KRB_AS_REQ

ID/Time(Enc)

TCP/88

2. KRB_AS_REP

TGT

サービス毎のポート

② チケット発行

ユーザーのIDや権限を証明するチケットを発行

3. KRB_TGS_REQ

TGT

4. KRB_TGS_REP

Service Ticket

③ チケット提出

各サーバでチケットを検証しDCに属する権限を持ったユーザーであるか検証

Service Ticket

5. KRB_AP_REQ/GSS-API

6. KRB_AP_REP

① 認証 : KRB_AS_REQ/REP

1. KRB_AS_REQ

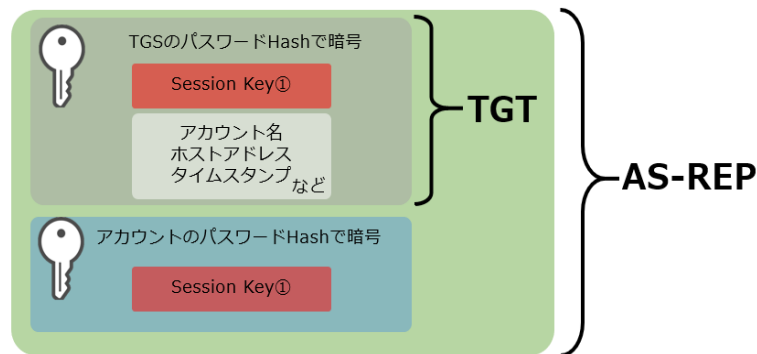
- TGTをもらうための認証情報を含んだリクエスト
 - ✓ アカウント名
 - ✓ 端末のIPアドレス
 - ✓ 時刻を自身のパスワードハッシュ(NTLM)で暗号化した値
 - ✓ nonce (リプレイ攻撃防止のための乱数)

2. KRB_AS_REP

- 時刻を復号し一致していればTGTとSession Key①(チケット用)を発行
- Authentication Server(≒DC)が発行する

TGT(Ticket Granting Ticket)とは

サーバー利用時のチケット発行に用いるための、最初の認証で発行されるチケット(Service Ticketを要求するTicket)



※1 ADはユーザーのPWを知っているので時刻を暗号化/復号できる

※2 ユーザーはkrbtgtのPWを知らないなのでTGTを復号できない。

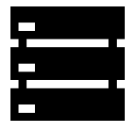
出典: <https://www.mbsd.jp/research/20190514/password1/>

ADにおける認証/認可の仕組み

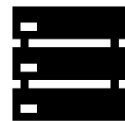
RFC 4120 - The Kerberos Network Authentication Service (V5)



ユーザー



ドメイン
コントローラー



アプリケーション
サーバー

① 認証

ユーザーがDCに属するユーザであることを確認する

1. KRB_AS_REQ

ID/Time(Enc)

TCP/88

2. KRB_AS_REP

TGT

サービス毎のポート

② チケット発行

ユーザーのIDや権限を証明するチケットを発行

3. KRB_TGS_REQ

TGT

4. KRB_TGS_REP

Service Ticket

③ チケット提出

各サーバでチケットを検証しDCに属する権限を持ったユーザーであるか検証

5. KRB_AP_REQ/GSS-API

Service Ticket

6. KRB_AP_REP

②チケット発行 : KRB_TGS_REQ/REP

3. KRB_TGS_REQ

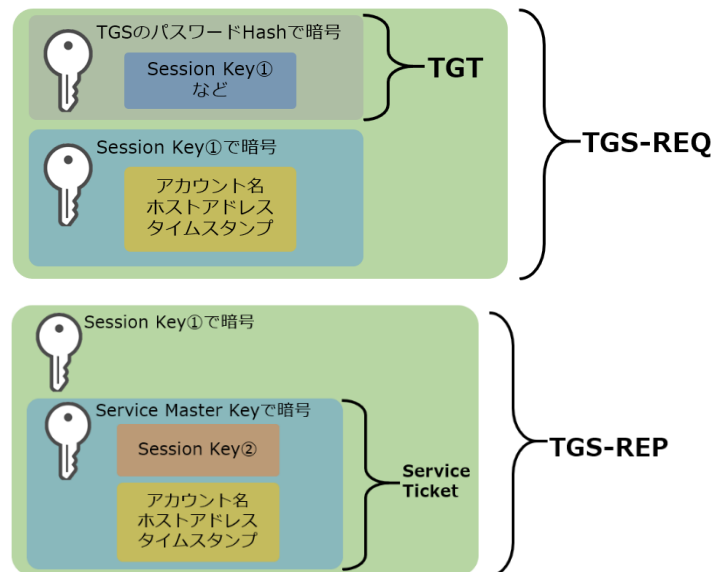
- ❑ Session Key①でアカウント名等を暗号化して送信
- ❑ サービスプリンシパル名 (SPN)でサービスを指定 (Session Keyで暗号化)
- ❑ SPNはアプリケーションサーバ(内で動くサービス) を特定するためのIDで、DC内で一意

4. KRB_TGS_REP

- ❑ TGSの暗号鍵 (krbtgtのPW=TGS既知の文字列) によってTGTを復号して検証できる
- ❑ 検証結果が正しければ、Service Ticketをユーザに送信
- ❑ Session Key②(サービス用)を発行

Service Ticketとは

対象サービスで使えるアカウントを認証するためのチケット



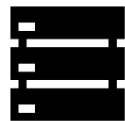
出典: <https://www.mbsd.jp/research/20190514/password1/>

ADにおける認証/認可の仕組み

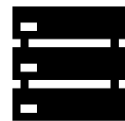
RFC 4120 - The Kerberos Network Authentication Service (V5)



ユーザー



ドメイン
コントローラー



アプリケーション
サーバー

① 認証

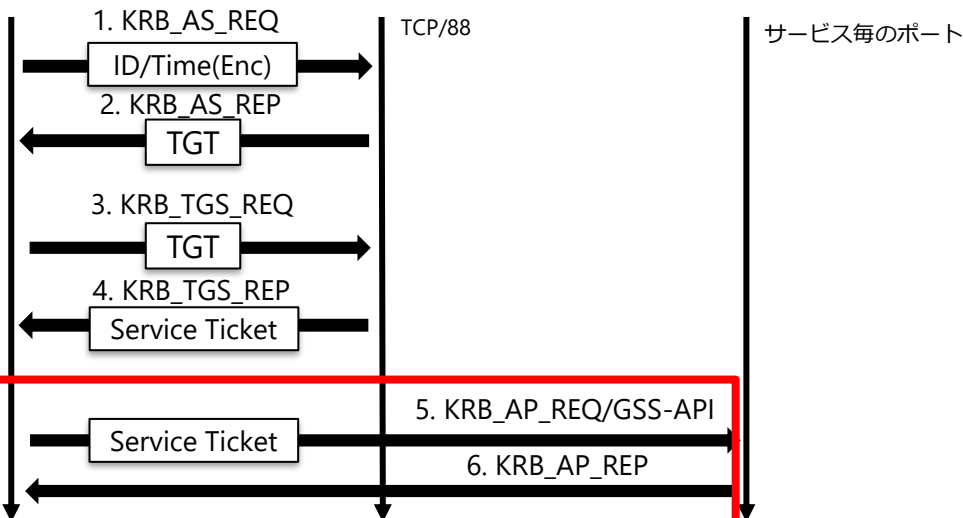
ユーザーがDCに属するユーザであることを確認する

② チケット発行

ユーザーのIDや権限を証明するチケットを発行

③ チケット提出

各サーバでチケットを検証しDCに属する権限を持ったユーザーであるか検証



③チケット提出 : KRB_AP_REQ/REP

5. KRB_AP_REQ

- ❑ Service Ticketを送信して認可を求める
- ❑ Session Key②(サービス用)は別途記録

6. KRB_AP_REP

- ❑ 認証結果を返す
- ❑ Session Key②で暗号化
- ❑ subkey等後続通信用の鍵を返す

通信に使用するポート/プロトコル

アプリケーション毎に異なるポート/プロトコルを利用

- ✓ HTTP/SMB/LDAP etc...
- ✓ GSS-APIという規格をKerberosで実装したものが使われる

確認演習：正常系におけるKerberos認証

演習

演習

1. Wiresharkをインストールして、パケットキャプチャしたデータを閲覧

- ❑ 演習ディレクトリ内のSMB.pcapngを見る
- ❑ Session Setup Requestでチケットが送信されていることを確認
 - ✓ SMB2->Security Blob->GSS-API->Simple Protected Negotiation->negTokenInit->krb5_blob->Kerberos->ap-req->ticket
 - ✓ enc-part以上は掘り下げて閲覧できない(cipherパラメータを展開できない)

2. configを設定して再度閲覧

- ❑ Preference->Protocols>KRB5
- ❑ Try to decrypt Kerberos blobsをチェック
- ❑ Kerberos keytab fileにtest.keytabファイル指定
- ❑ test.keytabは**アカウントのNTLMハッシュ**の詰め合わせ

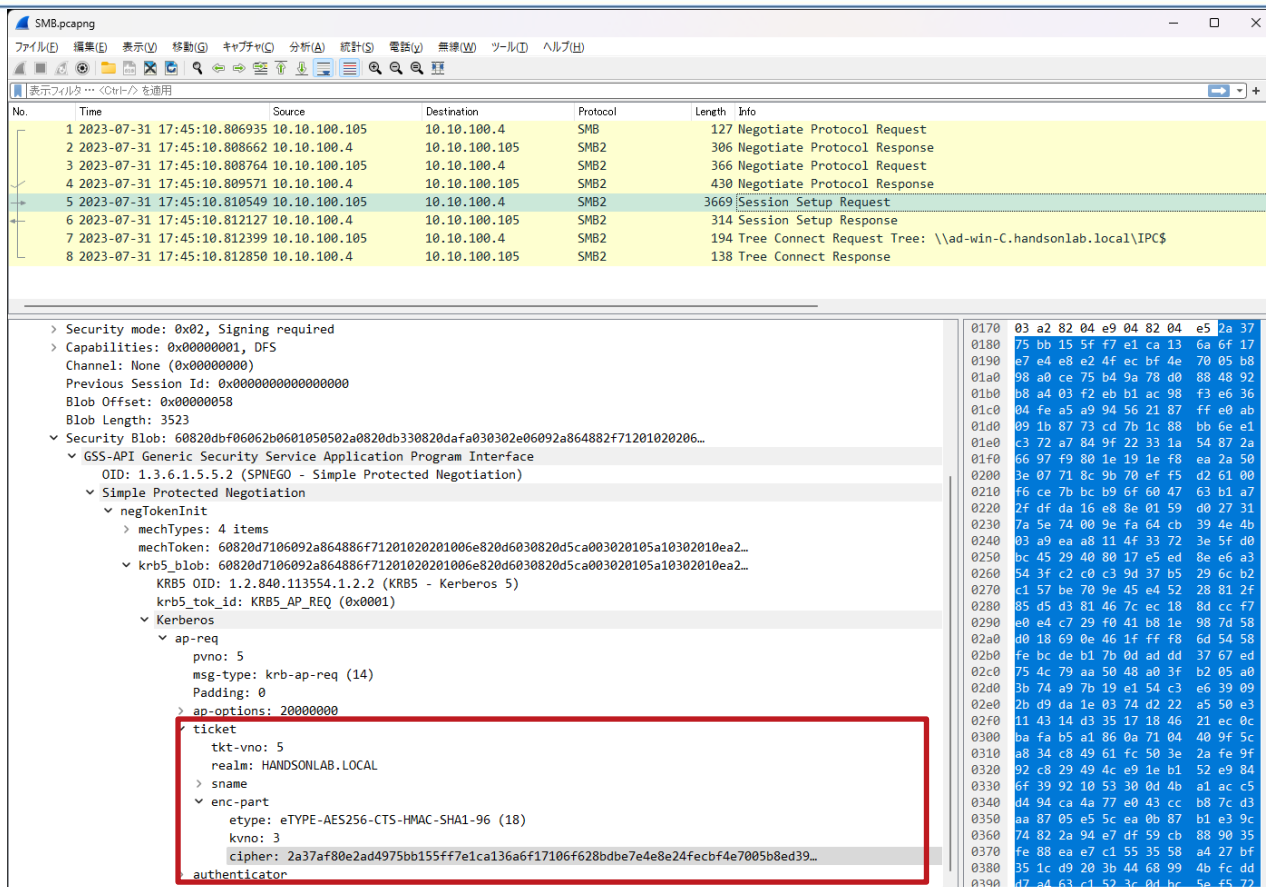
問題

なぜ1ではパケットの中身が見れず、2で見れたか？

- ① このパケットはKRB_(AS|TGS|AP)_(REQ|RES)のどれに当たるか
- ② 何の情報が何の鍵で暗号化されていたか
- ③ Wiresharkはどういった処理を行っているのか

確認演習：config設定前

演習



The screenshot displays a network packet capture analysis tool (SMB.pcapng) showing a list of SMB messages and a detailed view of the Session Setup Request (packet 5).

Packet List:

No.	Time	Source	Destination	Protocol	Length	Info
1	2023-07-31 17:45:10.806935	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB	127	Negotiate Protocol Request
2	2023-07-31 17:45:10.808662	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB	306	Negotiate Protocol Response
3	2023-07-31 17:45:10.808764	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB	366	Negotiate Protocol Request
4	2023-07-31 17:45:10.809571	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB	430	Negotiate Protocol Response
5	2023-07-31 17:45:10.810549	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB	3669	Session Setup Request
6	2023-07-31 17:45:10.812127	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB	314	Session Setup Response
7	2023-07-31 17:45:10.812399	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB	194	Tree Connect Request Tree: \\ad-win-C.handsontlab.local\IPC\$
8	2023-07-31 17:45:10.812850	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB	138	Tree Connect Response

Session Setup Request Details (Packet 5):

- > Security mode: 0x02, Signing required
- > Capabilities: 0x00000001, DFS
- Channel: None (0x00000000)
- Previous Session Id: 0x0000000000000000
- Blob Offset: 0x00000058
- Blob Length: 3523
- > Security Blob: 60820dbf06062b0601050502a0820db330820dafa030302e06092a864882f71201020206...
- > GSS-API Generic Security Service Application Program Interface
 - OID: 1.3.6.1.5.2 (SPNEGO - Simple Protected Negotiation)
 - > Simple Protected Negotiation
 - > negTokenInit
 - > mechTypes: 4 items
 - mechToken: 60820d7106092a864886f71201020201006e820d6030820d5ca003020105a10302010ea2...
 - > krb5_blob: 60820d7106092a864886f71201020201006e820d6030820d5ca003020105a10302010ea2...
 - KRBS OID: 1.2.840.113554.1.2.2 (KRB5 - Kerberos 5)
 - krb5_tok_id: KRB5_AP_REQ (0x0001)
 - > Kerberos
 - > ap-req
 - pvno: 5
 - msg-type: krb-ap-req (14)
 - Padding: 0
 - > ap-options: 20000000
 - > ticket
 - tk-t-vno: 5
 - realm: HANDSONLAB.LOCAL
 - > sname
 - > enc-part
 - etype: eTYPE-AES256-CTS-HMAC-SHA1-96 (18)
 - kvno: 3
 - cipher: 2a37af80e2ad4975bb155ff7e1ca136a6f17106f628dbde7e4e8e24fecbf4e7005b8ed39...
 - authenticator

確認演習：config設定後

演習

The screenshot displays the Wireshark network protocol analyzer. The top pane shows a list of captured packets, with packet 5 selected, which is an SMB Session Setup Request. The bottom-left pane shows the packet details for the selected packet, highlighting the 'Krb5' section. The bottom-right pane shows the raw packet data in hexadecimal and ASCII.

Packet List:

No.	Time	Source	Destination	Protocol	Length	Info
1	2023-07-31 17:45:10.806935	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB	127	Negotiate Protocol Request
2	2023-07-31 17:45:10.808662	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB2	306	Negotiate Protocol Response
3	2023-07-31 17:45:10.808764	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB2	366	Negotiate Protocol Request
4	2023-07-31 17:45:10.809571	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB2	430	Negotiate Protocol Response
5	2023-07-31 17:45:10.810549	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB2	3669	Session Setup Request
6	2023-07-31 17:45:10.812127	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB2	314	Session Setup Response
7	2023-07-31 17:45:10.812399	10.10.100.105	10.10.100.4	SMB2	194	Tree Connect Request Tree: \\ad-win-C.handsonlab.local\IPC\$
8	2023-07-31 17:45:10.812850	10.10.100.4	10.10.100.105	SMB2	138	Tree Connect Response

Packet Details (Packet 5):

- Blob Offset: 0x00000058
- Blob Length: 3523
- Security Blob: 60820dbf06062b0601050502a0820db330820dafa030302e06092a864882f71201020206...
- GSS-API Generic Security Service Application Program Interface
 - OID: 1.3.6.1.5.2 (SPNEGO - Simple Protected Negotiation)
 - Simple Protected Negotiation
 - negTokenInit
 - mechTypes: 4 items
 - mechToken: 60820d7106092a864886f71201020201006e820d6030820d5ca03020105a10302010ea2...
 - krb5_blob: 60820d7106092a864886f71201020201006e820d6030820d5ca03020105a10302010ea2...
 - KRBS OID: 1.2.840.113554.1.2.2 (KRB5 - Kerberos 5)
 - krb5_tok_id: KRB5_AP_REQ (0x0001)
 - Kerberos
 - ap-req
 - pvno: 5
 - msg-type: krb-ap-req (14)
 - Padding: 0
 - ticket
 - tko-vno: 5
 - realm: HANDSONLAB.LOCAL
 - sname
 - enc-part
 - etype: eTYPE-AES256-CTS-HMAC-SHA1-96 (18)
 - kvno: 3
 - cipher: 2a37af80e2ad4975bb155ff7e1ca136af17106f628bde7e4e8e24fecbf4e7005b8ed39...
 - Decrypted keytype 18 usage 2 using keytab principal ad-win-C@handsonlab.local (id=keytab.4 same...
 - encTicketPart
 - Padding: 0
 - flags: 40a50000
 - key

問題

なぜ1ではパケットの中身が見れず、2で見れたか？

- ① このパケットはKRB_(AS|TGS|AP)_(REQ|RES)のどれに当たるか
- ② 何の情報が何の鍵で暗号化されていたか
- ③ Wiresharkはどういった処理を行っているのか

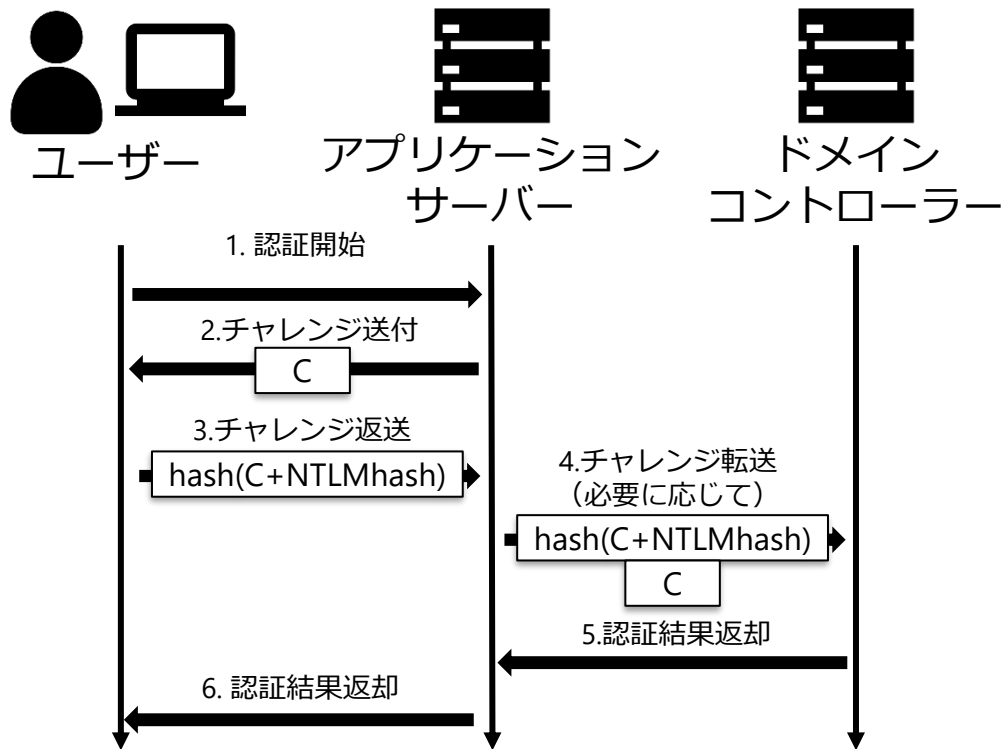
答え

1では鍵が分からないのでService Ticketを復号できないが、2ではkeytabに鍵が保存されているので復号できた

- ① このパケットはKRB_(AS|TGS|AP)_(REQ|RES)のどれに当たるか
✓KRB_AP_REQ (Service Ticketの提出リクエスト)
- ② 何の情報が何の鍵で暗号化されていたか
✓**Service TicketがSPNに紐づく鍵**で暗号化されている
- ③ Wiresharkはどういった処理を行っているのか
✓keytabに記録されたSPNに紐づく鍵で復号

その他の認証方式

NTLM認証



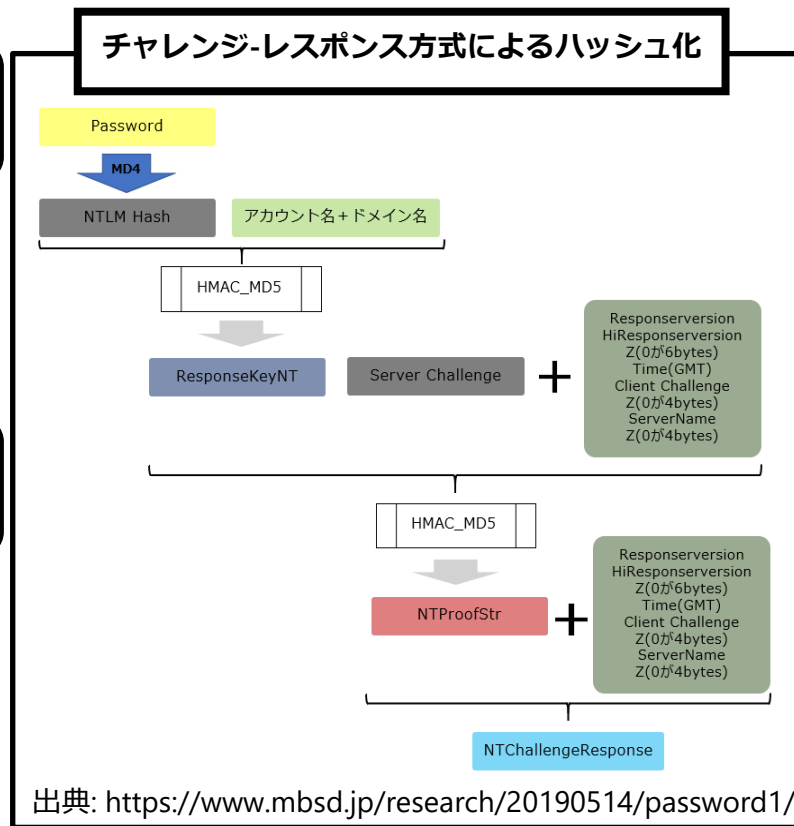
NTLM認証とは

チャレンジ-レスポンス方式

- ランダムな文字列+パスワードをハッシュ化
- サーバ側で同様の処理を行いパスワードと一致するか検証

NTLM認証における実装

- パスワードではなくNTLM Hashを用いる
- アカウント名とドメイン名も付与する
- HMAC-MD5を用いる



リモート認証とローカル認証

リモート認証

- ドメインコントローラーによる認証
- ドメインコントローラーに認証結果が記録される
- ドメインユーザー
 - ✓[ADドメイン名]¥[アカウント名]
- 管理者権限: Domain Administrator

ローカル認証

- ローカル端末で認証
- ローカル端末に認証結果が記録される
- ローカルユーザー
 - ✓.¥[アカウント名]
- 管理者権限: ローカルAdministrator

共通点

- Windowsの□グインユーザーとして使用可能
- 各マシンのイベントログに記録が残る
- RDP接続時のユーザーとして使用可能

ドメインアカウントの権限管理の重要性

業務要件と最小権限の原則

□必要以上の権限を与えない（不用意に管理者権限を与えない）

- ✓営業部は顧客先や契約資料にアクセス可能
- ✓情シス担当者は各端末を管理可能
- ✓各部署は個別に設置されたプリンタのみ使用可能

なぜ、権限管理が重要なのか？

□管理者権限は攻撃者のターゲットになりやすい

- ✓GPOによって全端末に影響を与えることができる
- ✓任意のユーザや権限を作成できる
- ✓ADのデータダンプ等を実行できる



攻撃者のやりたいことがすべてできる

グループポリシーオブジェクト(GPO)

ドメインに参加している端末の設定をドメインコントローラー側で管理する仕組み

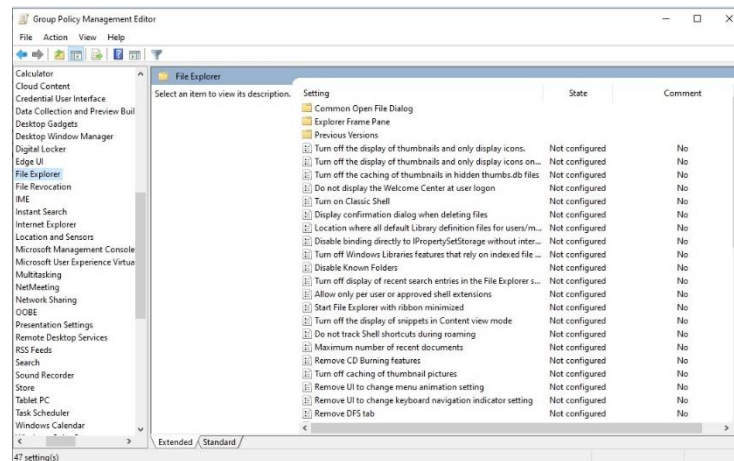
□ルールを定めたGPOをDCの各グループにリンク

- ✓端末毎のローカルGPOとDCの持つGPOがある
- ✓ローカルGPOが通常優先されるが、DC側から強制することも可能

□GPO保存場所

- ✓¥¥[ドメインコントローラー]¥SysVol¥[ドメイン名]¥Policies¥
- ✓XML形式で保存

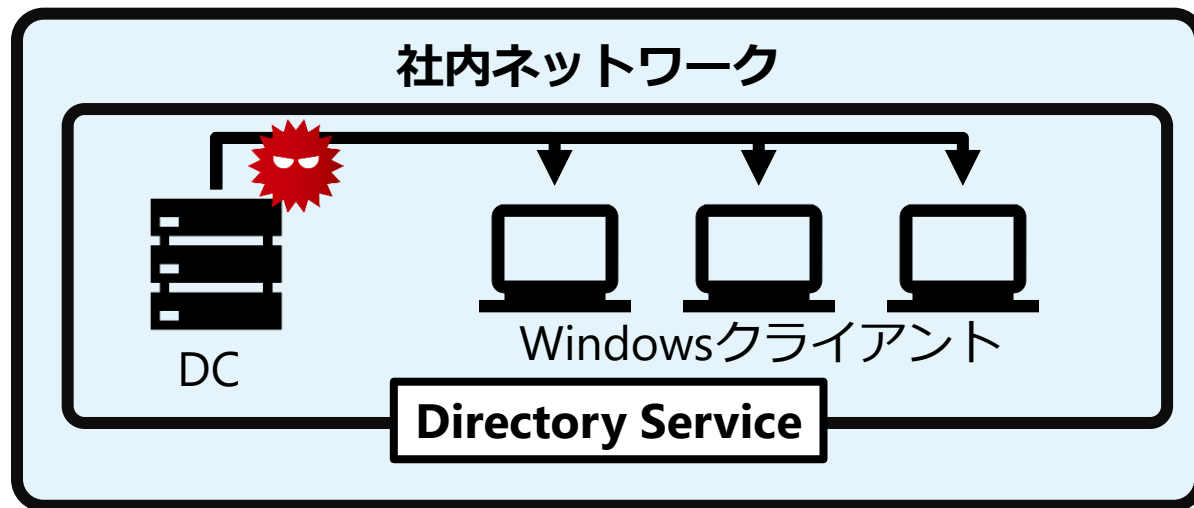
□通常は専用エディタを使って操作



SYSVOLを悪用したマルウェア拡散

Sysvolとは

- ❑ ドメインコントローラーに存在する共有フォルダー
- ❑ クライアントなどに配布するスクリプトなどが保存される
 - ✓ クライアントへのマルウェア拡散に悪用される場合がある
- ❑ スクリプト内にパスワードなどの記載がある場合は注意



1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

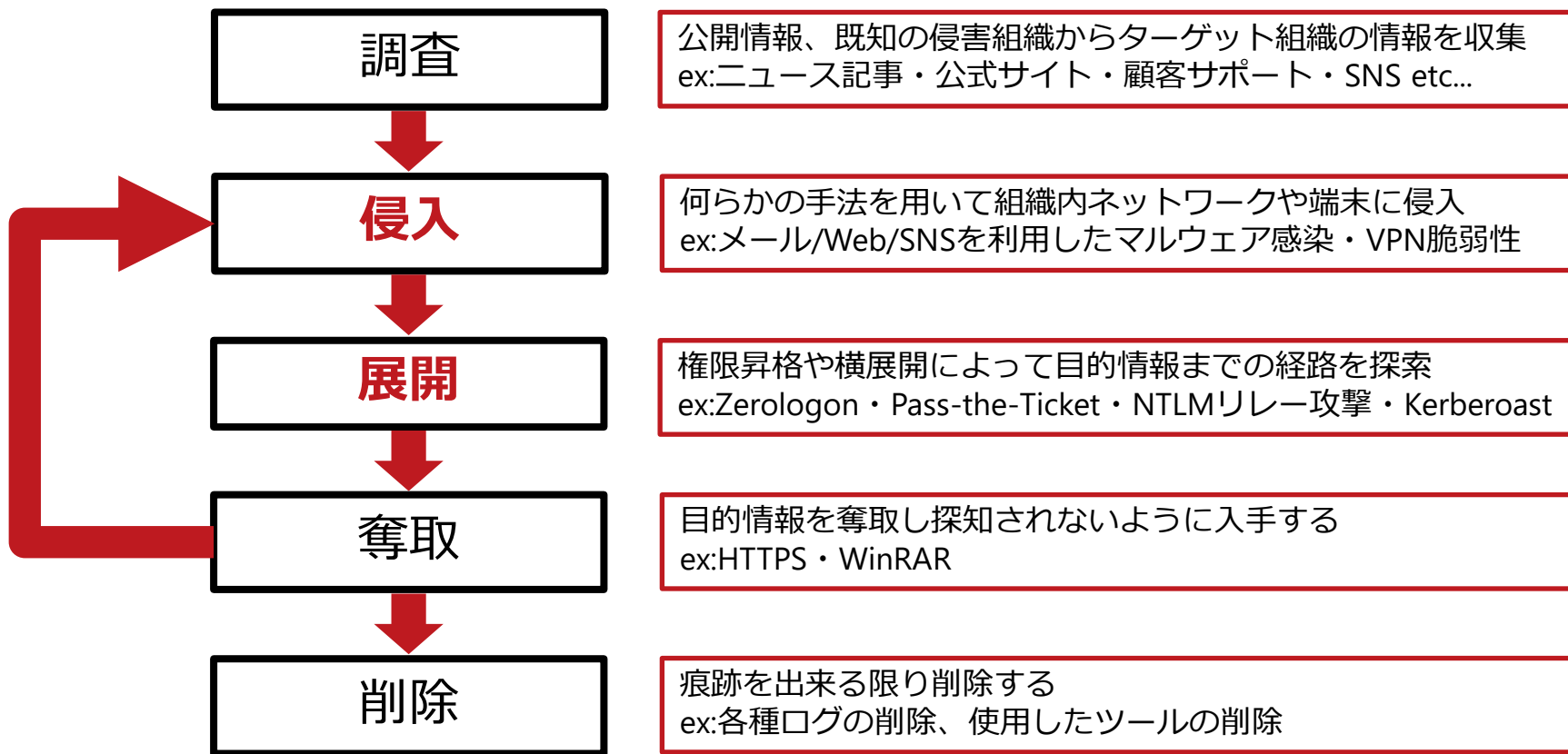
4

Windowsイベントログの分析

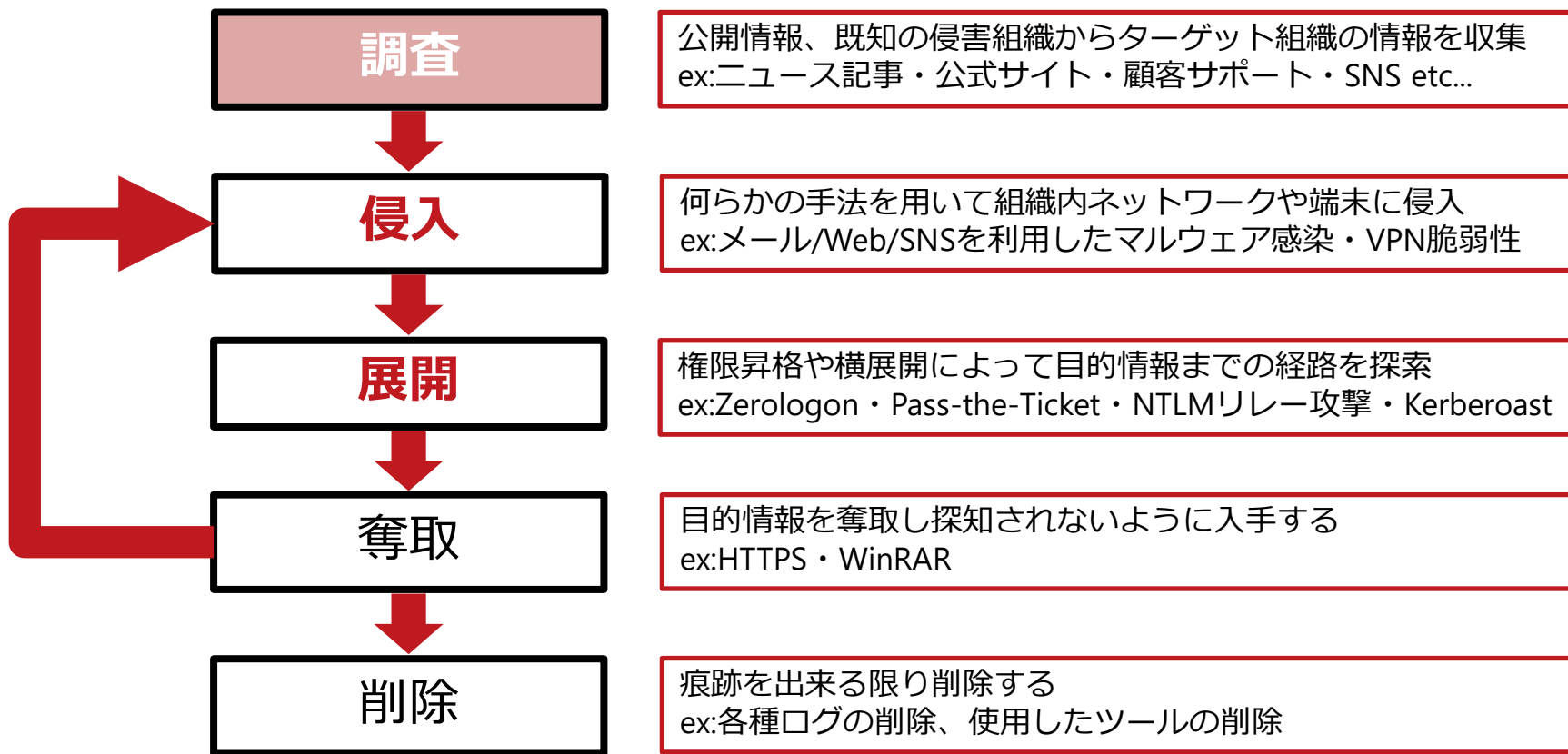
5

ハンズオン

攻撃者のネットワーク侵入の流れ



攻撃者のネットワーク侵入の流れ



公開情報から相手を調査するフェーズ

□外部公開資産があるか

- ✓Firewall、VPN、ルーター、Webサーバーなど
- ✓RDP、SSHなどアクセスポイントが公開されていないか

□メールアドレス、SNSなど従業員へのコンタクト手段

□すでに侵害された組織からの情報をもとに調査

検知は現実的ではないが**対策は可能**

□EASM(External Attack Surface Management)

□公開メールアドレスの調査

□SNS利用時の注意点を周知

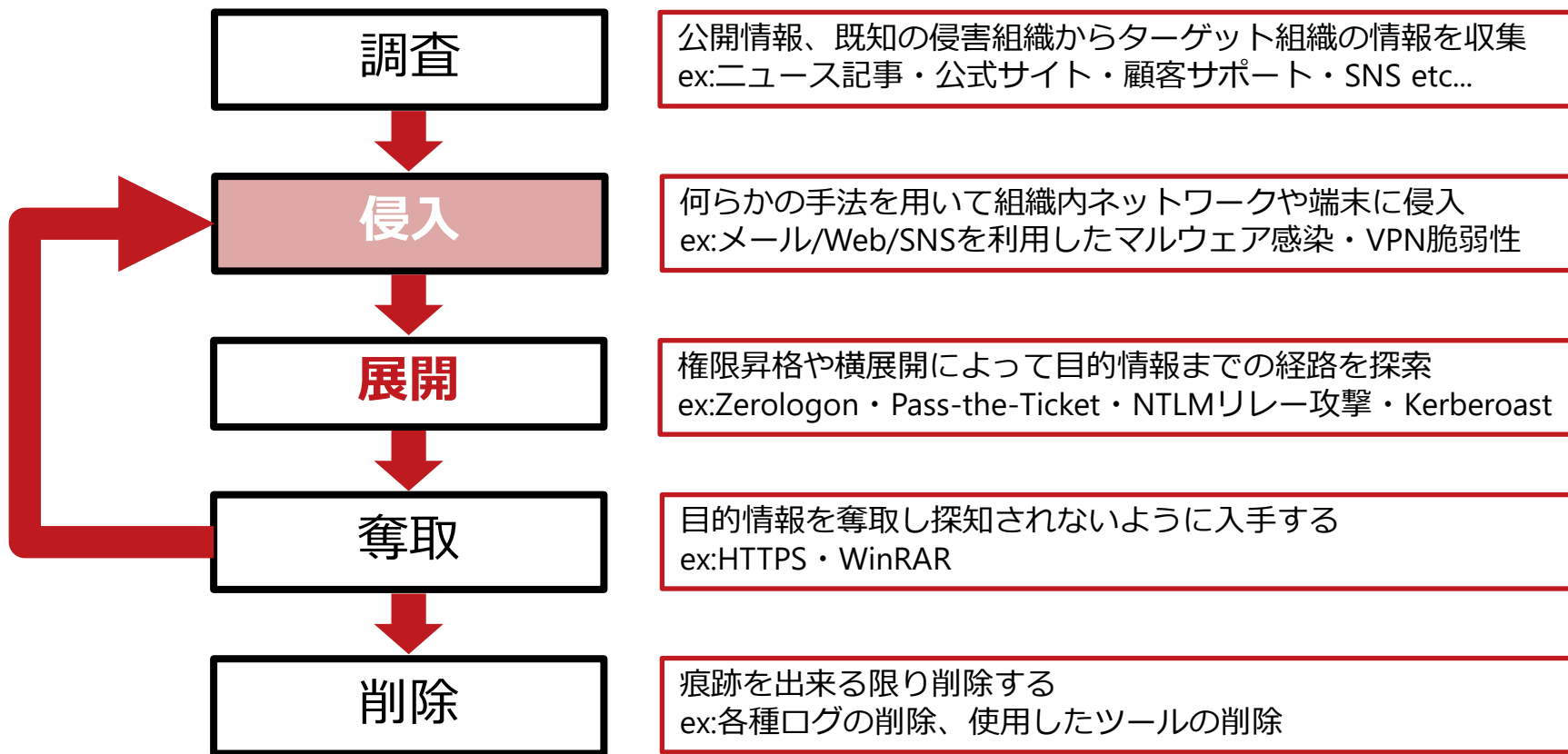
EASMとは

- ❑ 外部から攻撃される恐れのある公開資産を把握し、脆弱性対処やセキュリティリスクの低減を目的に管理を行う
 - ✓ Firewallやルーター、ファイルサーバー、Webサーバー、VPNなど
- ❑ 特にVPNが攻撃のターゲットになる場合が多いため管理が重要

VPN管理のポイント

- ❑ 未管理のアクセスポイントを増やさせない（部署単位の判断などで未管理のデバイスを設置させない）
- ❑ すべての製品で攻撃を受ける可能性があることを理解して製品選定を行う
 - ✓ 導入する製品がどのようなログを取得できるのか、被害発生時にどのような調査が可能かを事前に把握する
- ❑ パッチ未公開の脆弱性が公表されることを前提に、公表された際にどのような対応（VPNの停止など）をするのかを事前に検討しておく

攻撃者のネットワーク侵入の流れ



侵入

実際に攻撃を行って権限を奪取するフェーズ

- 外部公開資産の脆弱性を悪用
- メール経由でマルウェアを実行させる
- SNS経由で従業員にコンタクトし、マルウェアを実行させる

侵入への対策

- 外部公開資産の洗い出しと脆弱性管理
- セキュリティ製品の導入
- セキュリティ教育
- ログ分析

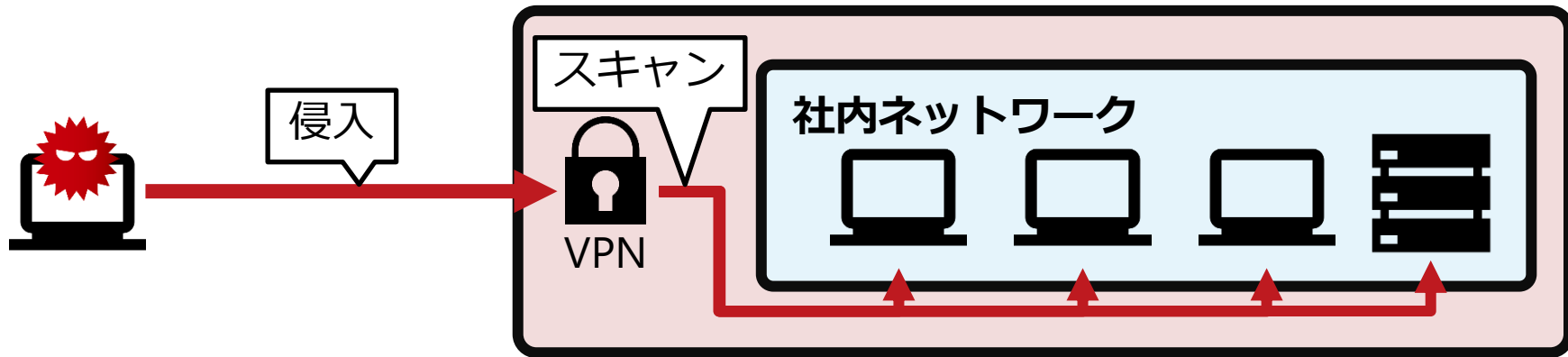


100%侵入を防ぐことは難しいが、対策を取ることでリスクの低減につながる

外部公開資産の脆弱性を悪用

VPNへの攻撃

- 狙われることが多いVPN製品
 - FortiGate製品、Ivanti製品、SonicWall製品、Palo Alto製品、Array Networks製品
- VPN機器に侵入した攻撃者は、**VPNから社内ネットワークに対して、ネットワークスキャン**を行い侵入できるターゲットを見つける



RDPやSSHを外部公開しない

ブルートフォース攻撃

アカウント名・パスワードを総当たりでログイン可能か調査する攻撃

- パスワード辞書やHydraなどが用いられる

公開サーバーは必ずターゲットになる

- RDPとSSHは常に攻撃を受けている

- 公開しているつもりはなくても、モバイルWifi接続時にグローバルIPアドレスが知らないうちに適用されて、攻撃を受けている場合もある

パスワード認証の前段で防御

- 管理画面を公開しない

- 接続元IPを制限する

SNS経由の攻撃

LinkedIn経由の標的型攻撃

- ❑ 攻撃者が、従業員に対してSNS経由でマルウェアを送信してくる。
- ❑ 業務端末でSNSを使用している場合は、注意が必要。

攻撃者が乗っ取ったアカウント

Dear [REDACTED].
Nice to meet you.
May I ask a question please?



ターゲットアカウント

Hi [REDACTED].
Yes, of course.



攻撃者が乗っ取ったアカウント

Do you satisfy with your salary?



ターゲットアカウント

Why is that important to you?



攻撃者が乗っ取ったアカウント

If you want I can introduce you new good job.
Part-time job is also possible.
What do you think?



ターゲットアカウント

I am looking for a part-time job, work remotely.
Thank you.



攻撃者が乗っ取ったアカウント

I will send you our JD.
Is it okay?



ターゲットアカウント

ok



攻撃者が乗っ取ったアカウント

Here I attach you.



攻撃者が乗っ取ったアカウント

Attach file

Please review.

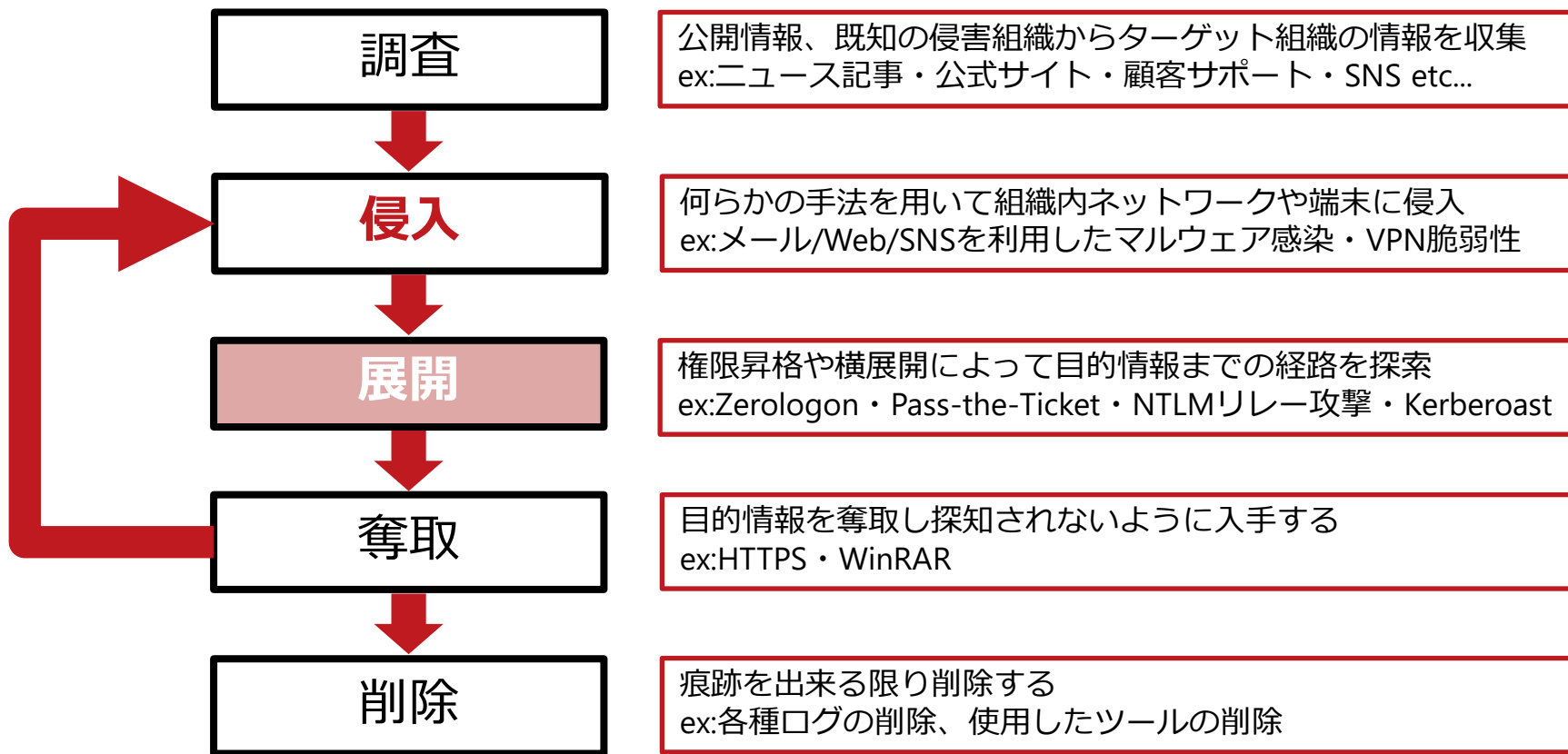


攻撃者が乗っ取ったアカウント

Password is [REDACTED]
Please check and let me know your opinion.

https://blogs.jpcert.or.jp/ja/2025/01/initial_attack_vector.html

攻撃者のネットワーク侵入の流れ



展開

管理者権限の奪取・他のシステムへの侵入

- 別のシステムに侵入するために管理者権限を奪取
 - ✓見つけたクレデンシャルを別システムでも使う
- 踏み台となっている端末から重要なサーバへ侵入

展開への対策

- 設計段階からセキュリティを意識
 - ✓最小権限の原則：余計な権限を持たせない
 - ✓公開サーバと重要な資産を持つサーバはネットワークで分離しておく
 - ✓パスワードを使いまわさない
 - ✓一般端末でDomain Administrator権限（または管理者権限）を持つドメインユーザーを使用しない

展開

攻撃者がネットワーク内を探索するために使用する手法

ネットワークスキャン

- NmapやPingコマンドが有名
- その他にも、GitHub上で公開されている様々なツールをネットワーク内に持ち込んでスキャンを行う

Netコマンド

- ドメイン内のユーザー情報や端末情報を取得できるWindows標準コマンド
- 探索以外にも別システムへの接続など、様々な攻撃フェーズで利用される

展開に使用される攻撃手法

Windows/AD環境における攻撃手法

□システム内のパスワードを記載したファイルの奪取・共通アカウント

□Pass-The-Hash/Ticket

□Kerberoast

□脆弱性（ZeroLogonなど）

□NTDSダンプ

Linux環境における攻撃手法

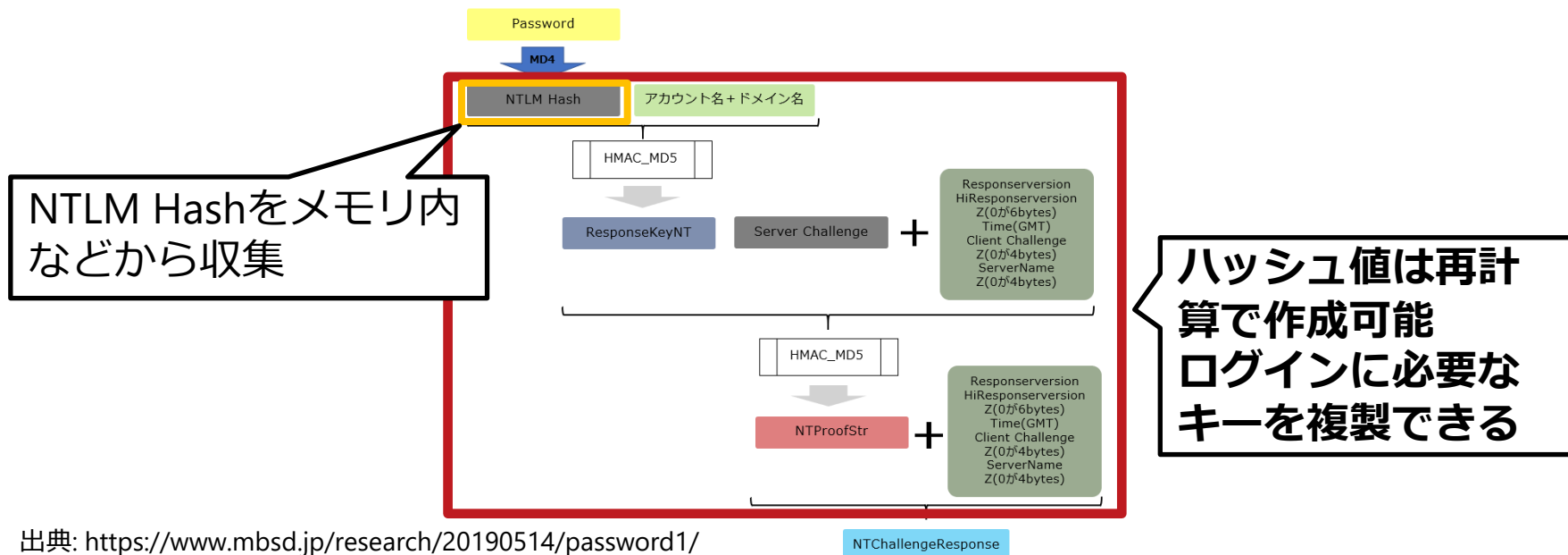
□Kernel Exploit

□ブルートフォース攻撃（SSHへのログイン）

Pass-the-Hash

Pass-the-Hashとは

- ハッシュ化されたパスワード情報を盗み、それを使用して同じネットワーク上に新しいユーザーセッションを作成し、ログインする攻撃



出典: <https://www.mbsd.jp/research/20190514/password1/>

Pass-the-Ticket

Pass-the-Ticketとは

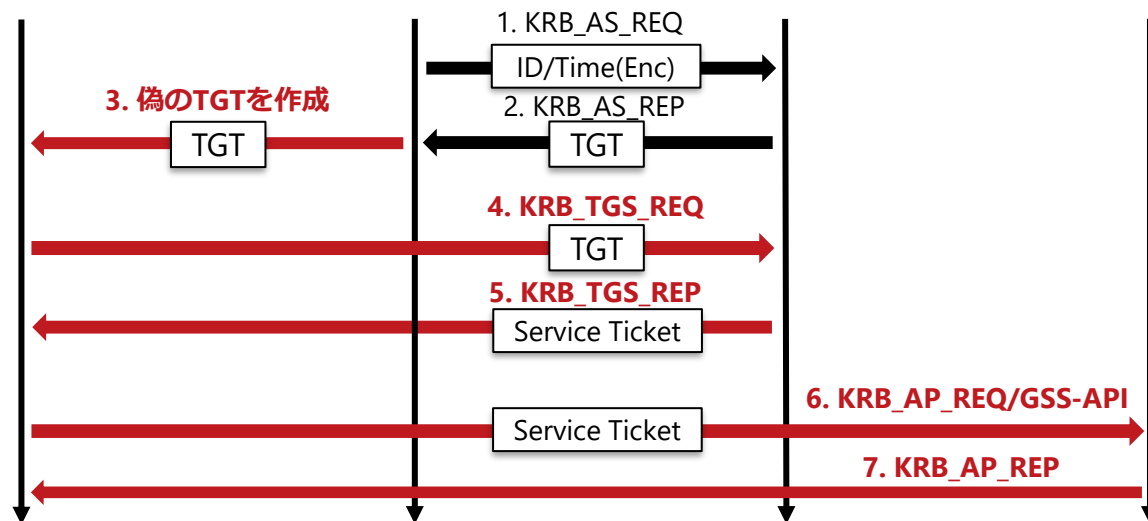
- ❑ Kerberos認証で使用する認証チケットを偽装し、それを使用して同じネットワーク上に新しいユーザーセッションを作成し、ログインする攻撃

攻撃者

ユーザー

ドメイン
コントローラー

アプリケーション
サーバー



NTDSダンプ

NTDSダンプとは

- ❑ 認証情報が含まれるNTDS.ditデータベースファイルをダンプ・解析することで、認証情報を窃取する。
- ❑ NTDS.ditなどは、ボリュームシャドーコピー（VSS）からコピー可能。

NTDS.ditとレジストリハイクをVSSからコピー

```
vssadmin create shadow /for=C:
```

```
copy %?%GLOBALROOT%Device%HarddiskVolumeShadowCopy2%Windows%NTDS%NTDS.dit C:%temp%  
copy %?%GLOBALROOT%Device%HarddiskVolumeShadowCopy2%Windows%System32%config%SYSTEM  
C:%temp%
```

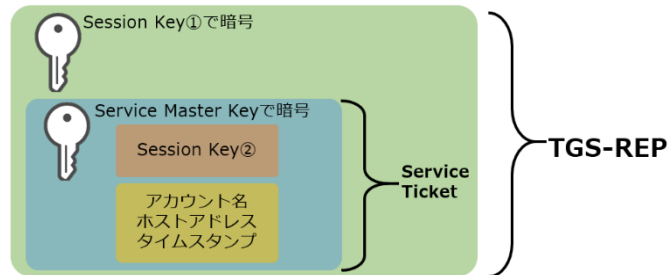
NTDS.ditからパスワードハッシュを抽出

```
secretsdump.py -system SYSTEM -security SECURITY -ntds ntds.dit LOCAL
```

Kerberoast (Kerberoasting攻撃)

Kerberoastとは

- ❑ サービスチケットからパスワードを解析する攻撃
 - ✓ サービスチケットの暗号化キーはService Master Key
 - ✓ Service Master KeyはNLTMハッシュ値を元に計算
 - ✓ **オフラインで総当たり解析**
 - ✓ サービスと紐づいたアカウントの**パスワードが脆弱だと乗っ取られる**



出典: <https://www.mbsd.jp/research/20190520/password2/>

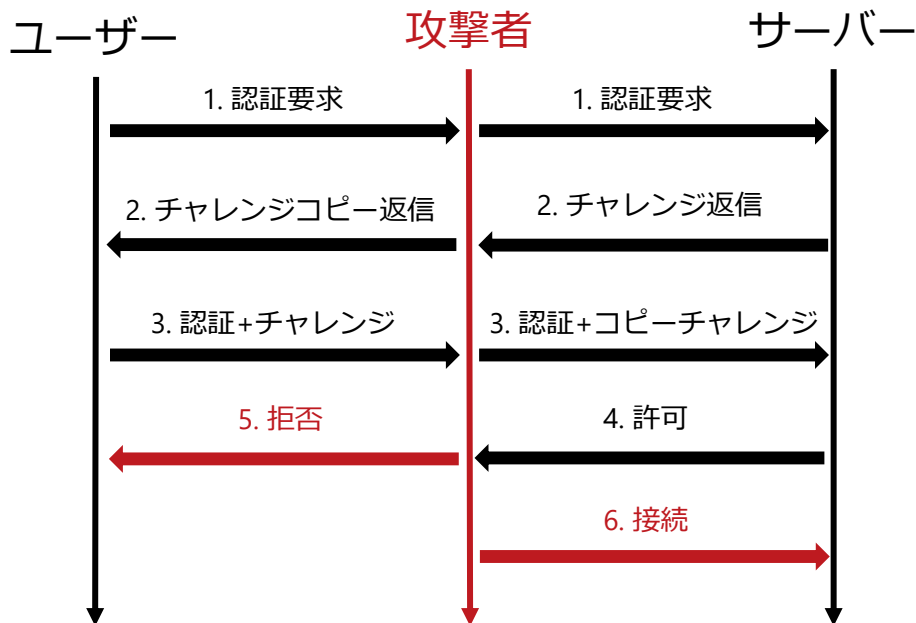


ネットワーク上は正常なやり取りなので検知不可能
(ローカルではLSASSメモリからダンプするためイベントログが残る)

NTLMリレー攻撃

NTLMリレー攻撃とは

- サーバーとクライアント間のチャレンジレスポンスを窃取し、本来のクライアントに代わって認証を取得する中間者攻撃



認証情報取得ツール：pwdump

パスワードハッシュを取得するツール

- ローカル管理者からドメインユーザへの横展開
- NTLMハッシュ値を取得し、Pass-the-Hash攻撃につなげる

検知

- 顕著なログは残らない
- プロセスの生成と終了から追跡するしかない
- 参考

- https://jpcertcc.github.io/ToolAnalysisResultSheet_jp/details/PwDump7.htm

認証情報取得ツール：Mimikatz

パスワードやチケットの取得に使われるツール

- ローカル管理者からドメインユーザへの横展開
- NTLMハッシュの取得
- ゴールデン/シルバーチケットの作成
- 個人証明書のダンプ
- SAM/SYSTEMの解析

検知

- それぞれの動作によって検知されるイベントが異なる
- 参考
 - https://jpcertcc.github.io/ToolAnalysisResultSheet_jp/details/Mimikatz_lsadump-sam.htm
 - https://jpcertcc.github.io/ToolAnalysisResultSheet_jp/details/Mimikatz_sekurlsa-logonpasswords.htm

認証情報取得ツール： Rubeus

アカウント検索やPW総当たりのツール

- 偽装チケットの作成
- Kerberoast可能なアカウントの検索
- 各アカウントへのパスワードブルートフォース

検知

- それぞれの動作によって検知されるイベントが異なる
 - ✓□グイン試行や成功： イベントID 4624
 - ✓TGT要求(ただし正常系と区別できない)： イベントID 4768
 - ✓ST要求： イベントID 4769

認証情報はどこに保存されているのか？

NTDS

- C:\Windows\NTDS\ntds.dit
- ドメインコントローラのデータベース
- ドメイン中の全てのユーザの認証情報が保管されている

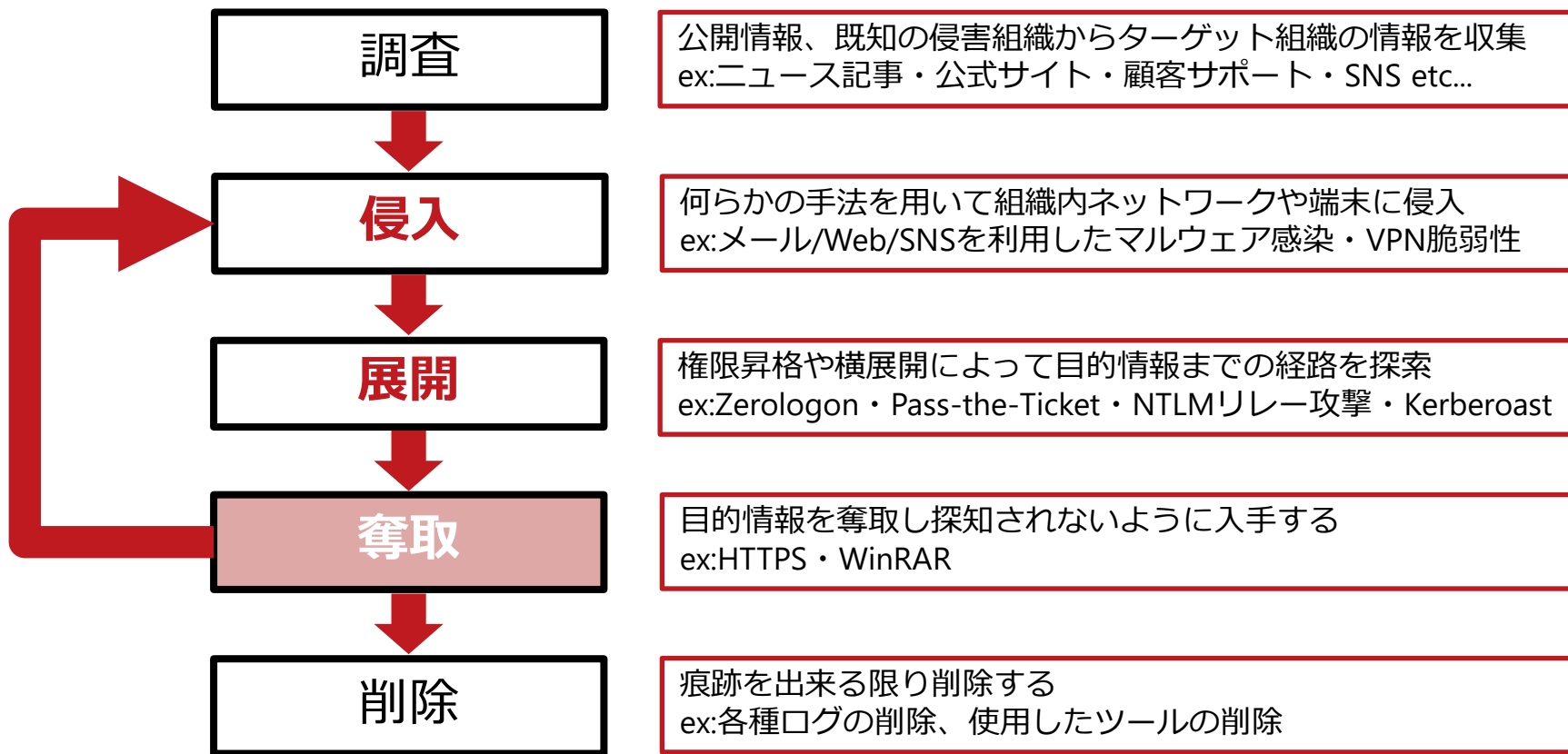
SAM

- ファイル : %SystemRoot%\system32\config\SAM
- レジストリ : HKLM\SAM
- 各端末の認証情報を保管するファイルおよびレジストリ

メモリー内

- LSASS.exe (認証をつかさどるアプリケーション) のメモリデータ
- Mimikatz、Procdumpなど様々なツールで取得可能

攻撃者のネットワーク侵入の流れ



奪取

侵入のための情報や資産価値のある情報を奪取

□ドキュメント類

✓顧客情報

✓製品の開発情報

□クラウドサービスへのアクセス情報

□データベースのデータ

✓口座や決済の情報

奪取への対策

□攻撃者の情報持ち出しを検知するのは不可能

✓一次的な外部への通信量の増加などを検知することができればよいが、通常の運用では困難

□重要情報の隔離、ネットワーク分離が重要

WinRAR

なぜ攻撃者はWinRARを使用するのか

- ❑ 攻撃者は、WinRAR（正規ファイル）を侵入した端末にダウンロードして、RARファイルに圧縮を行う
- ❑ WinRAR自体は、異なるファイル名に変更されているので、ファイル名だけでは、特定が難しい
- ❑ 攻撃者が、WinRARを使うのには以下の理由が考えられる
 - ✓ 内部のドキュメント群を一斉に持ち出すためには、ファイル一式を圧縮して1つのファイルにする方が良い
 - ✓ なるべく圧縮率が高い手法を用いた方が、外部への転送量が抑えられる



転送後のRARファイルは、削除されることが多い
事後のフォレンジック調査で、RARファイルの存在が判明することが多い

データの外部持ち出し方法

マルウェアの機能を使用

- 多くのマルウェアは、ファイルを転送する機能を持っており、その機能を使って外部にファイル転送する

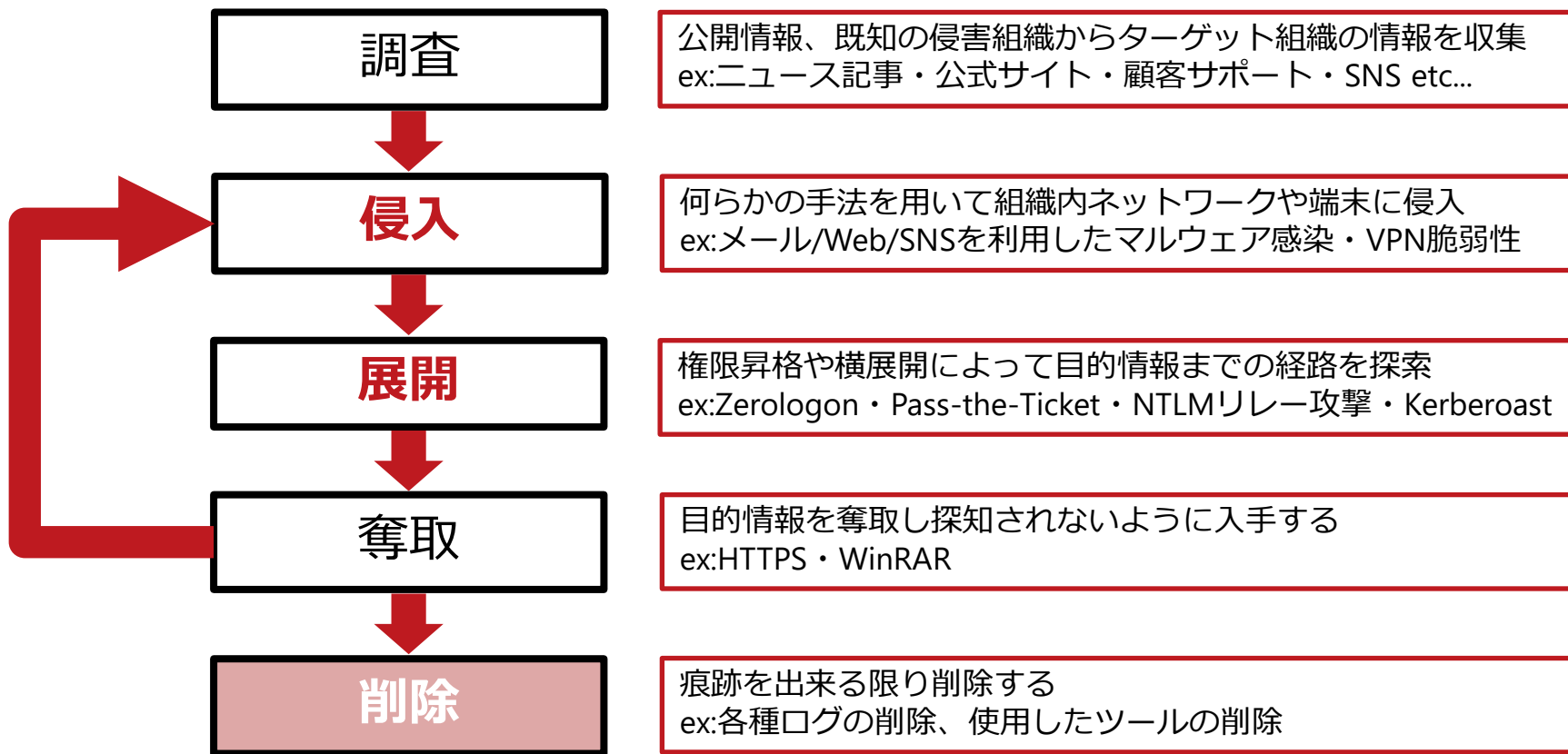
SSH、HTTPS、SOCKS5のトンネリング通信

- トンネリングツールを利用して、ネットワーク上許可された経路でファイルを外部に転送する

クラウドサービスへの送信

- 正規のクラウドサービスにファイルを転送する

攻撃者のネットワーク侵入の流れ



削除

侵入した痕跡を削除する

- 侵入し続ける
- 発覚を遅らせる
- 発覚後の捜査を遅延させる

削除への対策

- ファイルの削除は、通常操作と変わらないので、検知不可能
 - Windows標準コマンドdelなどが使用される
- ログの削除は通常操作では行わないため、検知できる可能性がある
 - イベントログの削除は、**イベントID: 1102**で記録される

参考: コマンド実行のログ

攻撃者はコマンドラインを使いこなす

- 調査/侵入/展開/奪取/削除全てのフェーズで使用
- WindowsにおいてはPowerShellまたは、CMDが多用される
- 攻撃者の挙動はコマンドプロンプト/シェルのログを見れば把握可能

Windows (PowerShell) のログ確認 ※ コマンドプロンプトのログは残らない

```
> type (Get-PSReadlineOption).HistorySavePath -Tail 20
> (Get-PSReadlineOption).HistorySavePath
> C:\Users\¥[UserName]\¥AppData\¥Roaming\¥Microsoft\¥Windows\¥PowerShell\¥PSReadLine\¥ConsoleHost_history.txt
```

Linuxのログ確認

```
# history
# cat $HISTFILE
```

参考: コマンド実行のログ (Bash)

実行したコマンドが毎行記録される

- 日時や出力は記録されない

攻撃者のアクティビティを把握する手掛かりになるが、注意が必要

- 同一権限で削除可能

- 記録されない利用法あり

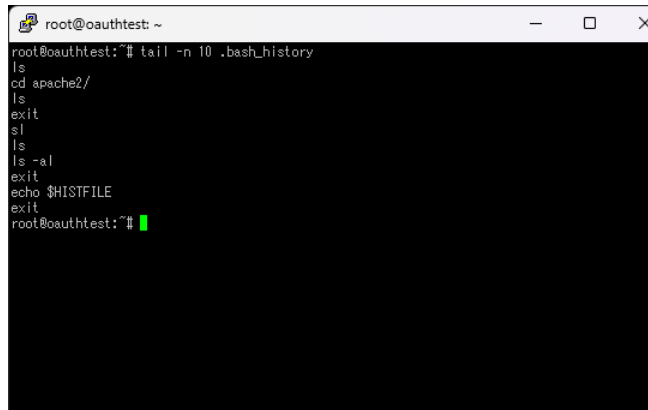
- 偽装も容易

攻撃者自身にログを閲覧される危険性

- サーバの役割

- 機密ファイルのパス

- コマンドで渡したパスワード

A terminal window titled 'root@oauthtest: ~' with standard window controls. The user has entered the command 'tail -n 10 .bash_history'. The terminal output shows the last 10 commands executed: 'ls', 'cd apache2/', 'ls', 'exit', 'sl', 'ls', 'ls -al', 'exit', 'echo \$HISTFILE', and 'exit'. The prompt returns to 'root@oauthtest:~' with a green cursor.

```
root@oauthtest:~  
root@oauthtest:~# tail -n 10 .bash_history  
ls  
cd apache2/  
ls  
exit  
sl  
ls  
ls -al  
exit  
echo $HISTFILE  
exit  
root@oauthtest:~#
```

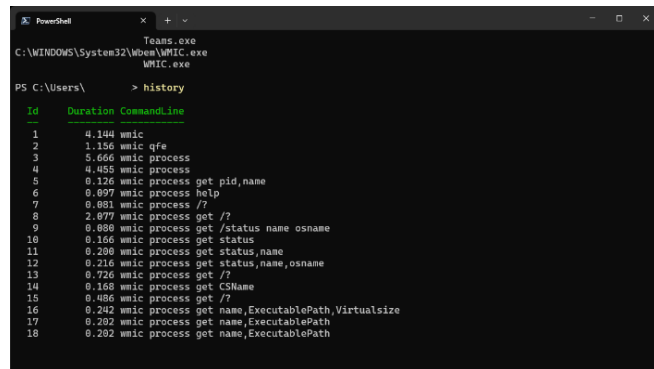
参考: コマンド実行のログ (PowerShell)

Historyコマンドとファイルの双方に記録が残る

- 日時等の情報は無い
- プロセス終了後も残るのはファイルのみ
- 一般ユーザは使わないため攻撃者のログが大半になる可能性が高い
- デフォルトで4096行分記録される

Windowsイベントログにも残る

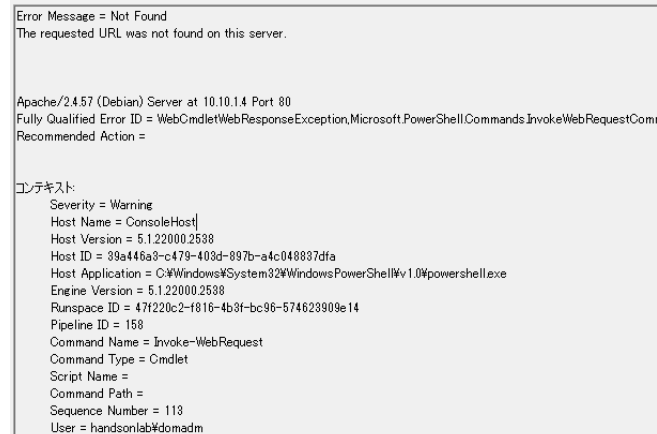
- デフォルトでは不完全
- エラー等からコマンドの全容を探る



```
PowerShell
Teams.exe
C:\WINDOWS\System32\Wbem\WMIC.exe
WMIC.exe

PS C:\Users\ > history

Id      Duration CommandLine
-----
1        4.144 wmic
2        1.156 wmic qfe
3        5.666 wmic process
4        4.485 wmic process
5        0.176 wmic process get pid,name
6        0.097 wmic process help
7        0.081 wmic process /?
8        2.077 wmic process get /?
9        0.880 wmic process get /status name osname
10       0.166 wmic process get status
11       0.290 wmic process get status,name
12       0.216 wmic process get status,name,osname
13       0.726 wmic process get /?
14       0.168 wmic process get CSName
15       0.486 wmic process get /?
16       0.242 wmic process get name,ExecutablePath,Virtualsize
17       0.202 wmic process get name,ExecutablePath
18       0.202 wmic process get name,ExecutablePath
```



```
Error Message = Not Found
The requested URL was not found on this server.

Apache/2.4.57 (Debian) Server at 10.10.1.4 Port 80
Fully Qualified Error ID = WebCmdletWebResponseException,Microsoft.PowerShell.Commands.InvokeWebRequestCom
Recommended Action =

コンテキスト:
Severity = Warning
Host Name = ConsoleHost
Host Version = 5.1.22000.2538
Host ID = 39a446a3-c479-403d-897b-a4c048887dfa
Host Application = C:\Windows\System32\WindowsPowerShell\v1.0\powershell.exe
Engine Version = 5.1.22000.2538
Runspace ID = 47f220c2-f816-4b3f-bc96-574623909e14
Pipeline ID = 158
Command Name = Invoke-WebRequest
Command Type = Cmdlet
Script Name =
Command Path =
Sequence Number = 113
User = handsonlab\domadm
```

1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

4

Windowsイベントログの分析

5

ハンズオン

Windowsイベントログ

Windowsにおけるログ

- OS内の色々な動作を記録

- ✓ メインは、Security・Application、System

- AD/端末で同一形式

保存フォルダ

- %SystemRoot%\System32\winevt\Logs\

拡張子

- EVTX

ログ確認方法

- イベントビューアーを使用するのがもっと簡単な方法

イベントビューアー

Windowsデフォルトのイベントログビューアー

- ❑ Windows Client/Server双方に標準搭載されている
- ❑ 動作が重い
- ❑ 最低限の検索機能がある

簡単な調査に限定して利用する

- ❑ 時刻やイベント（攻撃者の挙動）が明確な状態からの追跡に使う
- ❑ **大量のログを分析する用途には向かない**（専用の分析ツールを使用する）

イベントビューアー

イベントビューアーの見方

時刻情報

イベントID

ログの内容を示す情報

詳細情報

ログの詳細について
記載

The screenshot shows the Windows Event Viewer interface. The left pane displays the 'Security' log. The right pane shows a list of events with columns for 'Level', 'Date and Time', 'Source', 'Event ID', and 'Task Category'. The event 4624 is selected. Below the list, the 'Details' tab is active, showing the 'Logon Information' section. A red box highlights the 'Logon Information' section, which includes fields like 'Logon Type', 'Authentication Package', 'Logon ID', and 'Logon GUID'. Below this, the 'New Logon' section is visible, showing 'Security ID', 'Account Name', 'Account Domain', 'Logon ID', 'Linked Logon ID', 'Network Account Name', 'Network Account Domain', and 'Logon GUID'.

レベル	日付と時刻	ソース	イベント ID	タスクのカテゴリ
情報	2023/10/12 2:46:45	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon
情報	2023/10/11 1:59:47	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon
情報	2023/10/12 2:46:33	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon

イベント 4624, Microsoft Windows security auditing.

全般 詳細

ログオン情報

ログオン タイプ: 3
制限付き管理モード: -
仮想アカウント: いいえ
昇格されたトークン: はい

偽装レベル: 委任

新しいログオン:

セキュリティ ID: S-1-5-21-2544088802-1242352091-370156364-1103
アカウント名: CLIENT-WIN1-C\$
アカウント ドメイン: HANDSONLABLOCAL
ログオン ID: 0x1713A90
リンクされたログオン ID: 0x0
ネットワーク アカウント名: -
ネットワーク アカウント ドメイン: -
ログオン GUID: {888be69-629e-475b-cf76-1a961bd33a74}

ログの名前(M): Security
ソース(S): Microsoft Windows security
イベント ID(E): 4624
レベル(L): 情報
ユーザー(U): N/A
オペコード(O): 情報
詳細情報(D): [イベント ログのヘルプ](#)

ログの日付(D): 2023/10/12 2:46:45
タスクのカテゴリ(Y): Logon
キーワード(K): 成功の監査
コンピューター(R): ad-win-C-handsonlab.local

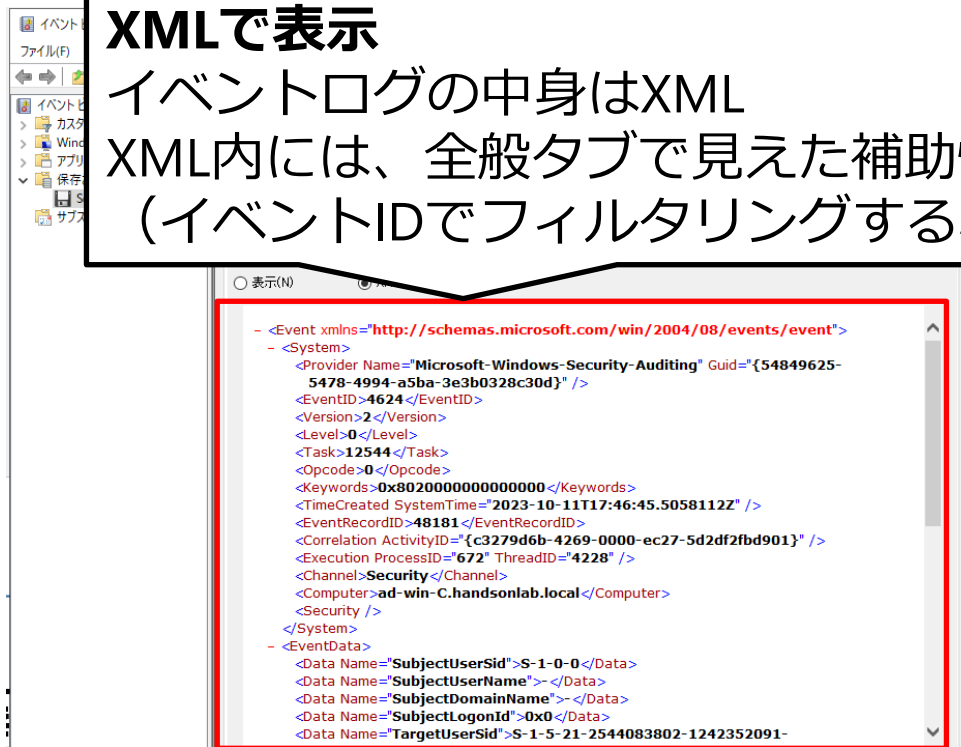
イベントビューアー

イベントビューアーの見方

XMLで表示

イベントログの中身はXML

XML内には、全般タブで見えた補助情報がなくなる
(イベントIDでフィルタリングする必要がある)



重要なWindowsイベントログ①

アカウント関連 (Security)

- ❑ イベントID 4624: アカウントが正常にログオンしました
- ❑ イベントID 4625: アカウントがログオンに失敗しました
- ❑ イベントID 4768: Kerberos 認証チケット (TGT) が要求されました
- ❑ イベントID 4769: Kerberos サービス チケットが要求されました
- ❑ イベントID 4776: コンピューターがアカウントの資格情報を検証しようとしてしました
- ❑ イベントID 4672: 新しいログオンに割り当てられた特別な特権

確認ポイント

- ❑ 大量のログオン失敗
- ❑ 意図しないアカウント作成・管理者アカウントの作成
- ❑ 意図しない特権アカウントでのログイン
- ❑ 意図しないリモートログイン（普段は行わないRDPからのログインなど）

重要なWindowsイベントログ

アカウント関連 (Security)

The screenshot shows the Windows Event Viewer interface. The left pane shows the tree view with 'Security' selected. The right pane shows a list of Security events. Event 4624 is selected, and its details are shown in the lower pane. Two red boxes highlight specific information: one for 'Logon Type' (3) and another for 'New Logon' details including Security ID, Account Name, and Domain. A third red box highlights the 'Logon GUID'.

ログオンタイプ
ログイン方法を示す情報

詳細情報
アカウント情報などが記載される

レベル	日付と時刻	ソース	イベント ID	タスクのカテゴリ
情報	2023/10/12 2:46:45	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon
情報	2023/10/11 1:59:47	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon
情報	2023/10/12 2:46:33	Microsoft Windows security auditing.	4624	Logon

イベント 4624, Microsoft Windows security auditing.

ログオン情報

ログオン タイプ: 3

偽装レベル: 委任

新しいログオン:

セキュリティ ID: S-1-5-21-2544083802-1242352091-370156364-1103
アカウント名: CLIENT-WIN1-C\$
アカウント ドメイン: HANDSONLABLOCAL
ログオン ID: 0x1713A90

リンクされたログオン ID: 0x0
ネットワーク アカウント名: -
ネットワーク アカウント ドメイン: -
ログオン GUID: {f88be69-629e-475b-cf76-1a961bd33a74}

ログの名前(M): Security
ソース(S): Microsoft Windows security
イベント ID(E): 4624
レベル(L): 情報
ユーザー(U): N/A
オペコード(O): 情報
詳細情報(D): [イベント ログのヘルプ](#)

ログの日付(D): 2023/10/12 2:46:45
タスクのカテゴリ(Y): Logon
キーワード(K): 成功の監査
コンピューター(R): ad-win-c-handsonlab.local

ログオン種別

ログオンの種類	ログオン タイトル	説明
0	System	システム の起動時など、システム アカウントでのみ使用されます。
2	Interactive	ユーザーがこのコンピューターにログオンしました。
3	Network	ネットワークからこのコンピューターにログオンしたユーザーまたはコンピューター。
4	Batch	バッチ ログオンの種類はバッチ サーバーによって使用され、そこではプロセスが直接介入せずにユーザーの代わりに実行される可能性があります。
5	Service	サービス コントロール マネージャーによってサービスが開始されました。
7	Unlock	このワークステーションのロックが解除されました。
8	NetworkCleartext	ユーザーがネットワークからこのコンピューターにログオンしました。ユーザーのパスワードは、非ハッシュ化形式で認証パッケージに渡されました。組み込みの認証では、ネットワーク経由で送信する前に、すべてのハッシュ資格情報がパッケージ化されます。資格情報は、プレーンテキスト (クリアテキストとも呼ばれます) でネットワークを通過しません。
9	NewCredentials	送信元が現在のトークンを複製し、送信接続用に新しい資格情報を指定しました。新しいログオンセッションのローカル ID は同じですが、他のネットワーク接続には異なる資格情報を使用します。
10	RemoteInteractive	ターミナル サービスまたはリモート デスクトップを使用してリモートでこのコンピューターにログオンしたユーザー。
11	CachedInteractive	コンピューターにローカルに保存されたネットワーク資格情報を使用してこのコンピューターにログオンしたユーザー。資格情報を確認するために、ドメイン コントローラーに接続できませんでした。
12	CachedRemoteInteractive	RemoteInteractive と同じです。これは、内部監査に使用されます。
13	CachedUnlock	ワークステーション ログオン。


重要なWindowsイベントログ②

プロセス関連 (Security)

- ❑ イベントID 4688: 新しいプロセスが作成されました
- ❑ イベントID 4689: プロセスが終了しました
- ❑ イベントID 5154: Windows フィルターリング プラットフォームで、アプリケーションまたはサービスによるポートでの着信接続のリッスンが許可されました
- ❑ イベントID 5156: フィルタリング プラットフォームによる接続の許可

確認ポイント

- ❑ 通常と異なるプロセスの生成/終了を検知する
 - ✓ 深夜にPowerShellが立ち上がっている
 - ✓ 知らないドメインに通信している

 これらのログは、デフォルト設定では記録されない
監査ポリシーの設定をする必要がある

重要なWindowsイベントログ③

Windows Defender (Microsoft-Windows-Windows Defender Operational)

- ❑ イベントID 1013: マルウェアやその他の望ましくない可能性のあるソフトウェアの履歴を削除しました。
- ❑ イベントID 1150: エンドポイント保護クライアントは正常に稼働しています
- ❑ イベントID 1151: エンドポイント保護 クライアントの正常性レポート
- ❑ イベントID 5001: リアルタイム保護が無効になっています。
- ❑ イベントID 5007 : Microsoft Defender ウイルス対策 の構成が変更されま

確認ポイント

- ❑ Windows Defenderをオフにしたり、マルウェアを検知した際に残る
- ❑ ノイズが少なく攻撃の全容もつかめる
- ❑ 使用しているウイルス対策ソフトで検知できなかったファイルを検知している可能性がある

監査ポリシー

監査ポリシーとは

- Windowsに標準で搭載されているログオン・ログオフやファイルアクセスなどの詳細なログを取得するための設定
- アカウント関連の監査ログは有効にしておくことを推奨

監査ポリシー使用の注意点

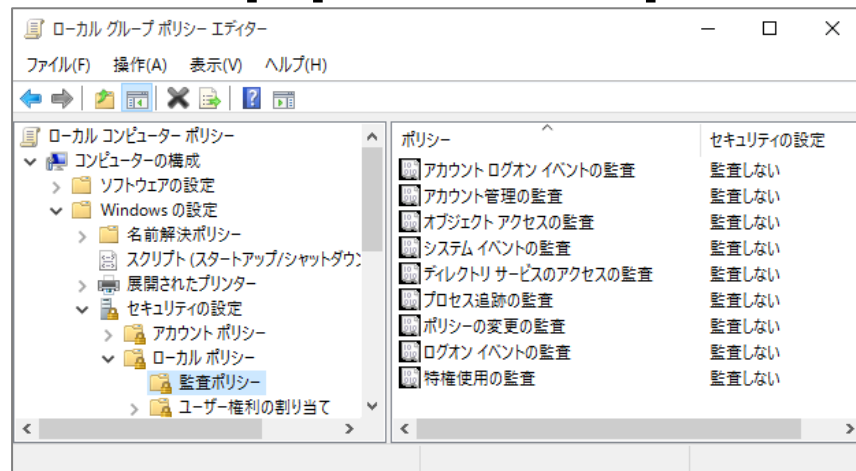
- 監査ポリシーを有効にすることで、**ログが増加する**
 - ✓ ログのローテーションが早くなり古いログが残りにくくなる
- 監査ポリシーを有効化する場合は、**イベントログの最大サイズの変更**もあわせて検討
 - ✓ イベントビューアーやwevtutilコマンドで変更可能

参考: 監査ポリシーの有効化方法

設定方法 ①

□ローカル グループ ポリシーの編集

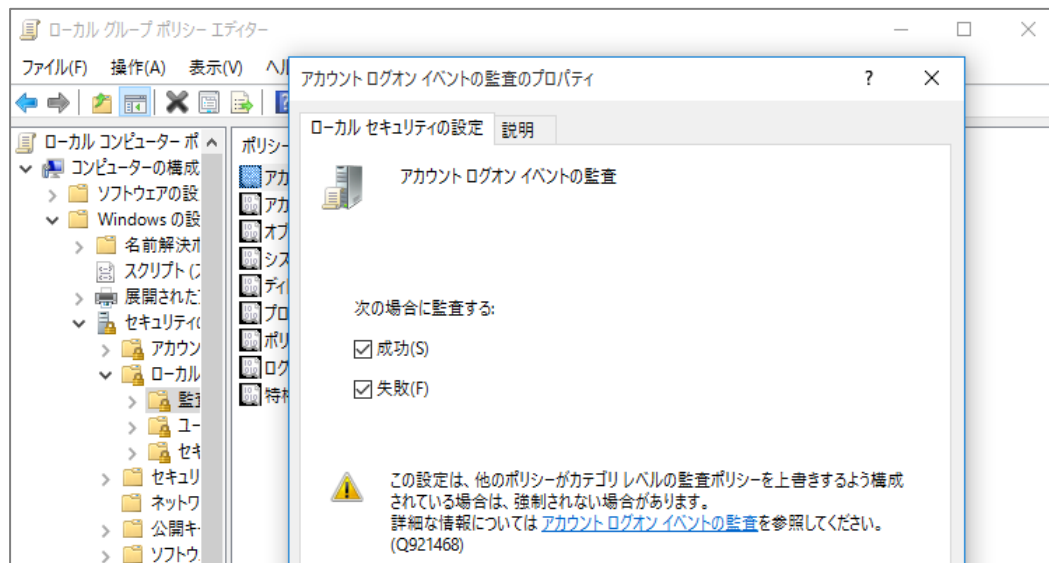
✓[コンピューターの構成]→[Windowsの設定]→[セキュリティの設定]
] →[ローカル ポリシー]→[監査ポリシー]



参考: 監査ポリシーの有効化方法

設定方法 ②

- 各ポリシーの「成功」「失敗」を有効



Sysmon

Sysmonとは

- ❑ 監査ログと同じく、デフォルトでは取得できないWindows上のアクティビティをログとして保存することができるマイクロソフトの提供するツール
- ❑ 以下のアクティビティをログに記録できる
 - ✓ ファイル作成・削除
 - ✓ プロセス起動・終了・インジェクション関連
 - ✓ レジストリ操作
 - ✓ DNS通信
 - ✓ ネットワーク通信
 - ✓ WMIイベント
 - ✓ ドライバ読み込み
- ❑ <https://learn.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/downloads/sysmon>

イベントログ分析のポイント

ポイント

- イベントログは、見る必要がない大量のログが記録されているので、ある程度絞り込みを行う必要がある

ログ絞り込みのポイント

- 見るイベントIDを特定する
 - ✓ 攻撃時に**どのようなイベントIDが記録されるのか**を理解する
- インシデント発生時刻前後に絞り込む
- ログ分析ツールを使用する
 - ✓ Splunk
 - ✓ Microsoft Sentinel
 - ✓ LogonTracer(OSS)
 - ✓ Hayabusa(OSS)

攻撃時にどのようなイベントIDが記録されるのか？

ポイント

- ブログやレポートなどで、攻撃時に記録されたイベントログの情報を知る

参考

- 侵入型ランサムウェア攻撃発生時に残るWindowsイベントログの調査
<https://blogs.jpcert.or.jp/ja/2024/09/windows.html>
- ツール分析結果シート
https://jpcertcc.github.io/ToolAnalysisResultSheet_jp/
- Operation Blotless攻撃キャンペーンに関する注意喚起
<https://www.jpcert.or.jp/at/2024/at240013.html>
- 攻撃グループMirrorFaceの攻撃活動
<https://blogs.jpcert.or.jp/ja/2024/07/mirrorface.html>

参考: 攻撃グループMirrorFaceの攻撃活動

(4) ファイアウォールのルール追加

- Windows Firewallの除外リストに、NOOPDOORで使用する特定ポート宛での通信を許可する設定を追加
- イベントログ Firewall With Advanced Security/Firewall : イベントID 2004で記録される

(5) 登録したサービスの隠蔽

- 登録したサービスが表示されないように、アクセス制御を設定

(6) Windowsイベントログの消去

- システムログの削除
- 各イベントログ : イベントID 1102で記録される

(7) Windows Defenderの停止

- イベントログ Windows Defender/Operational : イベントID 5001で記録される

<https://blogs.jpcert.or.jp/ja/2024/07/mirrorface.html>

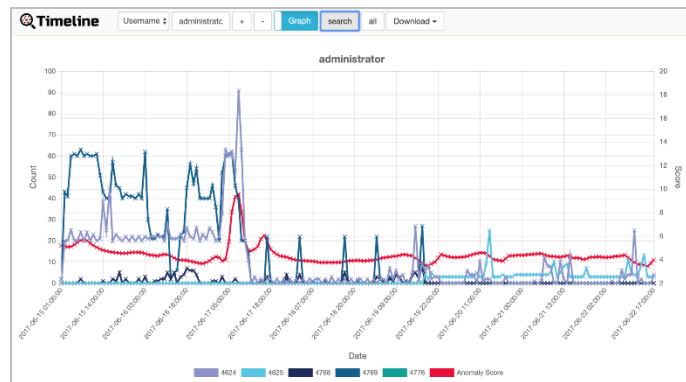
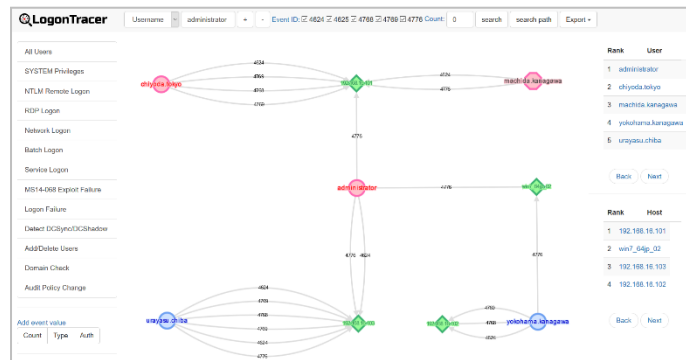
LogonTracer

イベントログの分析をサポートするツール

- イベントログを可視化
- アカウントのログイン情報を一画面に表示可能
- 重要性の高いアカウントおよびホストの抽出
- イベントログのタイムライン表示

膨大なログから着眼すべきログを教えてくれる

- あやしいアカウントやホストの"あたりをつける"ためのツール
- 意図しないアカウントとホストの結びつきを見るだけでも良い



<https://github.com/JPCERTCC/LogonTracer/wiki>

Hayabusa

イベントログのタイムライン分析をサポートするツール

- イベントログをCSVとして整形
- イベントビューアーでExportするよりも分析しやすいフォーマットで出力可能
- 分析結果をサマリーとして取得可能

ルールによる不審なログの検知

- ❑SIGMAルールを使って、あやしいイベントログを検知
- ❑見るべきポイントを絞ることができるので分析の効率化に有効

<https://github.com/Yamato-Security/hayabusa>

[illegible]

1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

4

Windowsイベントログの分析

5

ハンズオン

イベントビューアーでログ分析

1. 画面左からソースとなる情報源を選択する

- Securityログの場合: イベントビューアー（ローカル） ➡ Windowsログ ➡ セキュリティ
- その他のログ: イベントビューアー（ローカル） ➡ アプリケーションとサービス ログ ➡ Microsoft ➡ Windows

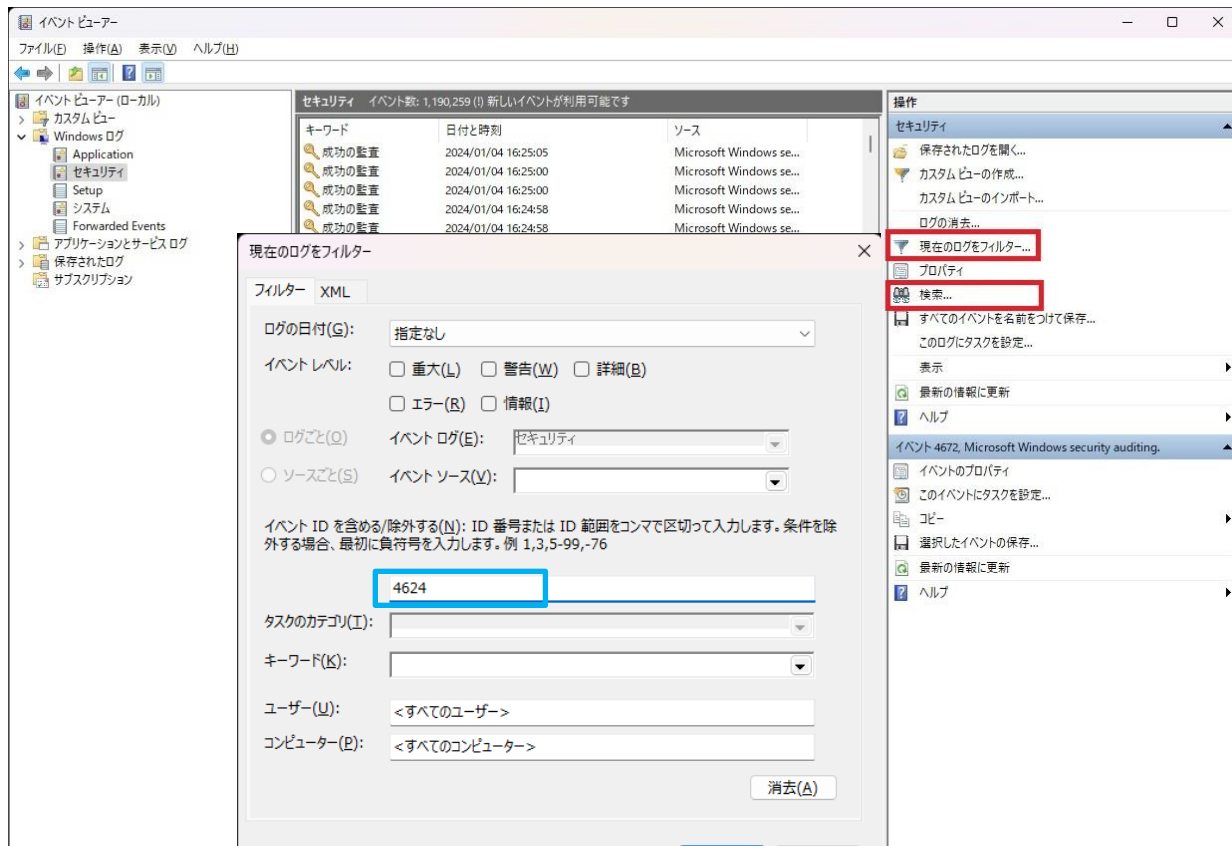
2. 画面右の“検索”や“フィルター”等で絞り込んで目的のログを探す

- 検索：軽いが検索しながらログを見れない。一度検索窓を閉じる必要がある
- フィルター：重いがリアルタイムにフィルタリングされたログが表示される
- イベントのIDが定まっている場合は**フィルター**、ホスト名等で探す場合は**検索**

3. 複雑な検索等を行う場合はCSV出力してから別ソフトで行う

- 対象のログを右クリック ➡ 全ての(orフィルターされた)イベントを名前を付けて保存 ➡ ファイルの種類をTXTまたはCSV形式に変更して保存

イベントビューアーのフィルタリング



よく使うフィルター条件

日時検索

- ❑ 大量のログを分析するには適さないので、**日時である程度絞り込む**

イベントIDの範囲で検索

- ❑ 「8000-8010」 8000～8010のイベントを検索
- ❑ 「8000,8010」 8000と8010のイベントを検索

日時・イベントID以外はXMLタブからXPathによるフィルター

- ❑ 分析手順は以下の通り
 - ① GUI上のフィルターを適用
 - ② XPathによるフィルターを適用
 - ③ テキストとして出力後、ツールやPython等を用いて加工

XPathによるフィルター

イベントビューアーでは、XPath1.0を利用可能

❑ イベントログはXMLの集合体

XPathの一部のみサポート

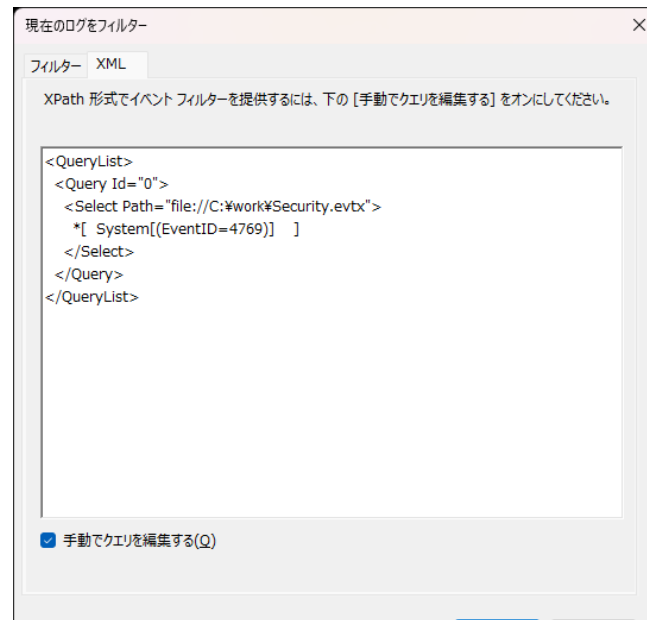
❑ contains等の関数は使えない

❑ 基本的なクエリのみ利用可能

❑ 演算子も利用可能

❑ XPath 1.0 の制限事項

✓ <https://learn.microsoft.com/ja-jp/windows/win32/wes/consuming-events>



参考: XPathの基礎知識

フィルターパターン1: *[タグ名[子タグ名]]

- フィルター例: *[hoge[fuga[piyo]]]
- フィルター結果: piyoタグがどちらもヒット

フィルターパターン2: *[タグ名[@属性=値]]

- フィルター例: *[piyo[@id=1]]
- フィルター結果: id=1のpiyoタグがヒット

フィルターパターン3: *[タグ名 = 値]

- フィルター例: *[piyo = "aaa"]
- フィルター結果: id=1のpiyoタグがヒット

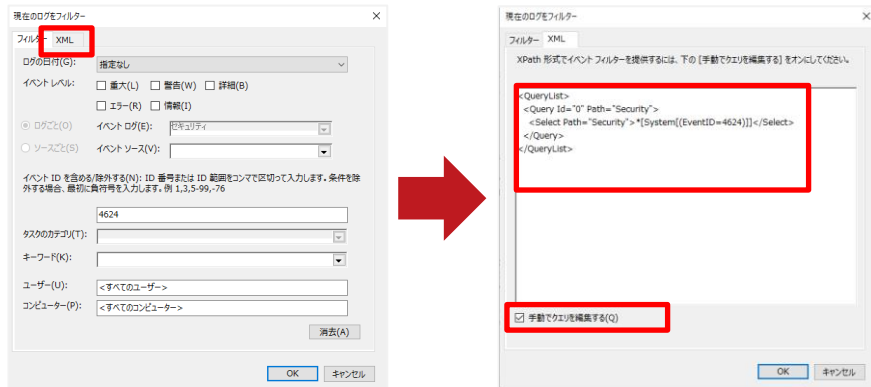
<!-- XML例 -->

```
<hoge>
  <fuga>
    <piyo id=1>aaa</piyo>
    <piyo id=2>bbb</piyo>
  </fuga>
</hoge>
```

参考: XPathのフィルタールールを組み立て方

1. フィルタータブでログのフィルターを実施

- 自動で検索用XMLに反映される
- 必要な一部だけ書き替える



2. イベントログのXMLと見比べる

- 全般/詳細タブを確認
- 何の値を対象にしたいか等

参考: XPathのフィルタールールの組み立て方

フィルター例1

- 任意の要素 *[] の中から<System>の子の<EventID>の値が4769のもの

```
<QueryList>
  <Query Id="0">
    <Select Path="file://C:¥work¥sample¥Security.evtx">
      *[ System[EventID=4769] ]
    </Select>
  </Query>
</QueryList>
```

参考: XPathのフィルタールールの組み立て方

フィルター例2

- 任意の要素 *[] の中から<System>の子の<EventID>の値が4769のもの
- <EventData>の子の<Data>のName属性がTargetUserNameであって、値がdomuser@LAB.LOCALのもの

```
<QueryList>
  <Query Id="0">
    <Select Path="file://C:¥work¥Security.evtx">
      *[]
      System[EventID=4769] and
      EventData[
        Data[@Name="TargetUserName"] ="domuser@LAB.LOCAL"
      ]
    ]
  </Select>
</Query>
</QueryList>
```


参考: XPathのフィルタールールの組み立て方

フィルター例3

- 任意の要素 *[] の中から<System>の子の<EventID>の値が4769のもの
- <TimeCreated>のSystemTime属性値が2024/1/18～2024/1/31まで

```
<QueryList>
  <Query Id="0"
    <Select Path="file://C:¥work¥Security.evtx">
      *[System[
        (EventID=4611) and
        TimeCreated[
          @SystemTime>='2024-01-18T00:00:00.000Z' and
          @SystemTime<='2024-01-31T00:00:00.000Z'
        ]
      ]
    ]
  </Select>
</Query>
</QueryList>
```

PowerShellを使ったイベントログ分析

Get-WinEventを使ったイベントログ分析

- ❑ PowerShellのコマンドGet-WinEventを使うことで、イベントビューアーと同様の分析を行うことが可能
- ❑ ただし、コマンドラインで大量のログを分析するのは困難なため、CSVなどにExportして分析する
- ❑ イベントビューアーと同じく、XPathによるフィルタリングが可能

PowerShellを使ったイベントログ分析

Get-WinEvent例

```
Get-WinEvent -Path C:¥test¥Security.evtx -  
FilterXPath '*[System[(EventID=4624)]' | Select-  
Object RecordID,TimeCreated,Id,Message | Sort-  
Object RecordId | Export-Csv -Path test.csv -  
NoTypeInfoInformation -Encoding UTF8
```

1

社内ネットワーク基礎

2

社内ネットワークへの攻撃手順

3

Windowsイベントログ

4

Windowsイベントログの分析

5

ハンズオン

問題

- イベントビューアーを使って、sample1.evtxログファイルから、ID:8000-8999までのログをまとめたCSVファイルを作成してください。

回答

現在のログをフィルター

フィルター XML

ログの日付(G): 指定なし

イベントレベル: ☐ 重大(L) ☐ 警告(W) ☐ 詳細(B)
☐ エラー(R) ☐ 情報(I)

☒ ログごと(O) イベント ログ(E):

☐ ソースごと(S) イベント ソース(V):

イベント ID を含める/除外する(N): ID 番号または ID 範囲をコンマで区切って入力します。条件を除外する場合、最初に負符号を入力します。例 1,3,5-99,-76

8000-8999

タスクのカテゴリ(T):

キーワード(K):

ユーザー(U): <すべてのユーザー>

コンピューター(P): <すべてのコンピューター>

消去(A)

OK キャンセル

問題

- sample1.evtx □ログファイルから、Microsoft Edgeが起動した時刻を抽出してください。

問題

- sample1.evtxログファイルから、Microsoft Edgeが起動した時刻を抽出してください。

ヒント

プロセス起動のイベントID

□4688

Microsoft Edgeのプロセス名

□C:\Program Files (x86)\Microsoft\Edge\Application\msedge.exe

回答

※ イベントビューアーの場合

```
<QueryList>
  <Query Id="0" Path="file://sample1.evtx">
    <Select Path="file://sample1.evtx">
      *[
        System[(EventID=4688)] and
        EventData[Data[@Name="NewProcessName"]="C:¥Program Files
(x86)¥Microsoft¥Edge¥Application¥msedge.exe"]
      ]
    </Select>
  </Query>
</QueryList>
```

回答

イベントビューアー

ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)

イベントビューアー (ローカル)

- カスタム ビュー
- Windows ログ
- アプリケーションとサービス ログ
- 保存されたログ
 - sample1
- サブスクリプション

sample1 イベント数: 42,628

フィルター: フィルター オプションの設定からフィルターの構成を表示するには、“フィルター” コマンドをクリックします。 イベント数: 5

レベル	日付と時刻	ソース	イベント ID	タスクのカテゴリ
情報	2023/07/21 18:45:37	Microsoft Windows security auditing.	4688	Process Creation
情報	2023/07/21 18:45:37	Microsoft Windows security auditing.	4688	Process Creation
情報	2023/07/21 18:45:36	Microsoft Windows security auditing.	4688	Process Creation
情報	2023/07/21 18:45:34	Microsoft Windows security auditing.	4688	Process Creation
情報	2023/07/21 18:45:33	Microsoft Windows security auditing.	4688	Process Creation

イベント 4688, Microsoft Windows security auditing.

全般 詳細

☐ 表示(N) ☒ XML で表示(X)

```
- <Event
  xmlns="http://schemas.microsoft.com/win/2004/08/events/event">
- <System>
```

回答

※ PowerShellの場合

```
Get-WinEvent -Path C:¥sample1.evtx -FilterXPath  
'*[System[(EventID=4688)] and  
EventData[Data[@Name="NewProcessName"]="C:¥Program Files (x86)¥Microsoft¥Edge¥Application¥msedge.exe"]]' |  
Select-Object RecordID,TimeCreated,Id,Message | Sort-  
Object RecordId | Export-Csv -Path test.csv -  
NoTypeInfoInformation -Encoding UTF8
```

問題

- sample1.evtx □ ログファイルから、アカウント : jpcertuser でRDP経由で □ ログインした □ ログをフィルターしてCSVファイルを作成してください。

問題

- sample1.evtx □ グファイルから、アカウント名 "**jpcertuser**" で **RDP** 経由で □ ログインした □ ログをフィルターして CSV ファイルを作成してください。

ヒント

□ ログオン成功のイベントID

- イベントID : 4624

RDP 接続の LogonType

- 10

回答

```
<QueryList>
  <Query Id="0" Path="file://sample1.evtx">
    <Select Path="file://sample1.evtx">
      *[
        System[(EventID=4624)] and
        EventData[Data[@Name="LogonType"]="10" and
          Data[@Name="TargetUserName"]="jpcertadmin"
        ]
      ]
    </Select>
  </Query>
</QueryList>
```

回答

イベントビューアー

(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)

イベントビューアー (ローカル)

- カスタム ビュー
- Windows ログ
- アプリケーションとサービス ログ
- 保存されたログ
 - sample1
- サブスクリプション

sample1 イベント数: 42,628

フィルター: フィルター オプションの設定からフィルターの構成を表示するには、“フィルター” コマンドをクリックします。。イベント数: 1

レベル	日付と時刻	ソース	イベント ID	タスクのカテゴリ
情報	2023/07/21 17:18:43	Microsoft Windows security auditing.	4624	Login

イベント 4624, Microsoft Windows security auditing.

全般 詳細

☐ 表示(N) ☒ XML で表示(X)

```
- <Event
  xmlns="http://schemas.microsoft.com/win/2004/08/events/event">
- <System>
```

問題

sample2.evtxはバックドアツールがインストールされていた端末のイベントログです。通常このツールはWindows Defenderに検知されるはずでしたが、この時は検知されませんでした。誰がDefenderを切ったのか、特定してください。

問題

sample2.evtxはバックドアツールがインストールされていた端末のイベントログです。通常このツールはWindows Defenderに検知されるはずでしたが、この時は検知されませんでした。誰がDefenderを切ったのか、特定してください。

ヒント

Windows Defenderの停止時間を特定

□ イベントID : 5001

Windows Defenderの停止時間周辺でログインしているアカウントを特定

回答

イベントビューアー

ファイル(F) 操作(A) 表示(V) ヘルプ(H)

イベントビューアー (ローカル)

- カスタムビュー
- Windows ログ
- アプリケーションとサービス ログ
- 保存されたログ
 - sample2
 - サブスクリプション

sample2 イベント数: 43,179

フィルター: フィルター オプションの設定からフィルターの構成を表示するには、「フィルター」

レベル	日付と時刻	ソース	イベント ID	メッセージ
情報	2023/07/21 18:18:34	TaskScheduler	141	タスクの登録が削除されました
情報	2023/07/21 18:18:34	Windows Defender	5001	なし
情報	2023/07/21 18:18:34	Microsoft Windows security audit...	5379	User Account Management
情報	2023/07/21 18:18:34	Microsoft Windows security audit...	5379	User Account Management
情報	2023/07/21 18:18:33	Microsoft Windows security audit...	5379	User Account Management

イベント 5379, Microsoft Windows security auditing.

全般 詳細

資格情報マネージャーの資格情報が読み取られました。

サブジェクト:

セッション ID:	S=1-5-21-101533365
アカウント名:	testadmin001
アカウントドメイン:	client-win1-C
ログオン ID:	0xECFBD6
読み取り操作:	資格情報の列挙

このイベントは、ユーザーが資格情報マネージャー内に格納されている資格情報の読み取り操作を実行したときに発生します。

Windows Defenderの停止

Windows Defenderの停止時にログインしているアカウント